

玉川上水・分水網の構成と関連遺構に関する調査 (その2)

2017年

辻野 五郎丸
玉川上水域研究会 代表

共同研究者：谷下雅義 中央大学工学部教授
布施孝志 東京大学准教授
大野曉彦 中央大学工学部助教

公益財団法人とうきゅう環境財団 2016 年度一般研究助成

玉川上水・分水網の構成と関連遺構に関する調査(その 2)

Structure and Remnants of Tamagawa Waterway Network, Part2

報告書

玉川上水域研究会

代表 辻野 五郎丸

はじめに

本報告書はとうきゅう環境財団 2016 年度一般研究助成「玉川上水・分水網の構成と関連遺構に関する調査(その 2)」の研究成果をまとめたものである。

研究は、昨年度の研究に引き続き、大学・市民団体と連携し、玉川上水・分水網の関連遺構を調査するとともに、将来の保全・再生のあり方を提言することを目的としている。

このため、本研究の実施にあたっては、大学・市民団体の連携組織である「玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会(代表山田正 中央大学教授)」との密接な連携のもとに進めることとした。

また、研究の成果は、同会が主催するシンポジウムに基礎資料として提供するとともに、本研究の一部はシンポジウムの報告書である「展示と講演の記録 2016 年 10 月 8 日～10 月 10 日」にも掲載させていただいた。

なお、本研究会の構成および、玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会の構成団体は次ページの通りである。

多大なご教示とご協力をいただいた関係各位に改めお礼申し上げます。

平成 29 年 3 月

玉川上水域研究会

■玉川上水域研究会

氏名	分担	所属
辻野 五郎丸	研究総括 景観 水辺計画	中央大学共同研究員
谷下 雅義	研究指導 制度 都市計画	中央大学教授
西 真理	分水網 調査研究	中央大学大学院修士2年
中島 航	玉川上水本線 調査研究	中央大学4年・谷下研究室

■玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会

団体名	所属	分担	氏名
水循環都市東京シンポジウム実行委員会	中央大学 法政大学 日本大学 東京理科大学 東京大学	総括実行委員長	山田正 中央大学教授
玉川上水・分水網の保全再生連絡会	研究者・専門家 有志	代表	田畑貞壽 千葉大学名誉教授
未来遺産登録団体 玉川上水ネット	23 市民団体	代表	柴 利男 (前) 西村 弘 (現)
日本橋水辺再生研究会	日本橋再開発推進協議会	代表	山本 泰人

目 次

はじめに

第1章 玉川上水・分水網の現状

- (1) 玉川上水・分水網と水利システム----- 1
- (2) 玉川上水・分水網の変容過程 ----- 1
- (3) 玉川上水の現状と空間区分 ----- 7
- (4) 現況の玉川上水の維持管理制度----- 10

第2章 地誌・教科書等に見る玉川上水への眼差しの変容過程

- (1) 玉川上水が掲載されている地誌・教科書等 ----- 14
- (2) 地誌・教科書等に見る玉川上水への眼差しの変化 ----- 19
- (3) 玉川上水の景観の変化 ----- 24

第3章 市民の目で見えた玉川上水・分水網

- (1) 淀橋浄水場通水停止以降の水辺環境の変化と市民意識 ----- 28
- (2) 地誌・教科書等に見る玉川上水への眼差しの変化 ----- 31

第4章 今後の課題について ----- 42

資料編

- 01. 多摩から江戸・東京をつなぐ水循環保全再生 ----- 47
- 02. 地誌・教科書等に見る玉川上水・分水網 ----- 51

第1章 玉川上水・分水網の現状

(1) 玉川上水・分水網と水利システム

玉川上水は、江戸時代初頭の承応3年（1654）に羽村から四谷大木戸までの約43kmを開渠で開削し、そこから暗渠で江戸城・武家地の用水確保および、江戸市中の飲料水・暗渠で生活用水の供給を目的として開削された水利システムである。また、よく知られているように、多摩川の羽村で取水し武蔵野台地の尾根筋を伝い江戸市街地へ至る間に寛政3年（1791）までに33の分水をうがち、新田開発に大きく寄与したといわれる。さらに、分水の水脈は台地を開析した中小河川の流頭へ流れ落ち、養水あるいは湧水、場所によっては水車などの動力源として活用され谷津田へと連なる安定的な水源を形成した。

このように、玉川上水は単に江戸への水道供給にとどまらず、武蔵野台地に樹枝状に穿たれた分水網により、新田集落の開発、低地の水利に安定化をもたらしていた。

その影響範囲は、武蔵野台地を中心に多摩川左岸の低地、荒川の右岸低地にまでおよび、広大な地域の水循環の基軸を形成していたことに大きな特徴がみられる。

一方、四谷大木戸から先の暗渠による上水道の供給は江戸城を中心に隅田川右岸の江戸市街地へと大きく広がる。さらにその余水は、渋谷川の流頭へとつながるのみならず、四谷見附から外濠、内濠、さらに神田川、日本橋川へと流出し、江戸市街地のお濠、中小河川の維持用水として安定化に寄与していたといわれる。こうした江戸中心市街地を網羅した水道網と同時に、お濠、神田川・日本橋川など水辺環境の維持、ひいては舟運の安定化にも寄与していただろうことが推察される。

玉川上水・分水網の歴史地理学的意義を考える場合、こうした、台地・低地に広がる上水・用水の役割のみならず、台地・低地の水源涵養の重要性も併せ評価しておくことが重要となる。

(2) 玉川上水・分水網の変容過程

① 近代的水道整備に伴う玉川上水（開渠区間）の変容

江戸時代化から明治中期まで維持されてきた、玉川上水を基軸とした水利システムは明治31年（1898）に新宿・淀橋浄水場が整備され近代的水道に移行を契機として徐々に変貌する。この近代的水道整備と拡張事業の過程が玉川上水の水利システムに及ぼした変化の概要を整理すると次のようになる。

【明治31年（1898）近代的水道の供給開始】

明治26年（1893）の淀橋浄水場起工を嚆矢として皇居・東京の中心地域の水道は近代的水道システムへの転換が始まる。一方、玉川上水の本線は、杉並区和田から分岐した新水路へ分派され、その下流の区間は、副次的な役割に留まり、四谷大木戸までの区

間は一部暗渠となり配水ルートにのみ確保される。

【大正 13 年（1924）村山貯水池、境・和田浄水場竣工、通水始まる】

大正 9 年（1920）に第一期水道拡張事業が策定さる。第 1 期事業は大正 13 年（1924）に竣工、関連導水路も整備され配水が始まる。これにより、玉川上水の村山貯水池から淀橋浄水場に至る水道原水の暗渠による導水が始まり、玉川上水の上水導水の役割は大幅に軽減される。但し、千川上水をはじめ多くの分水が生きており玉川上水の主な役割は“用水供給”へと移行する。

【昭和 7 年（1932）の第二期水道拡張事業】

市域拡張に伴い増大する水需要に対応するため、昭和 7 年（1932）に第二期水道拡張事業が着工。小河内ダム、東村山浄水場の建設が始まる。一方では、新宿の市街地の発展などの観点から、淀橋浄水場の移転についての計画検討が始まる。

【昭和 40 年（1965）淀橋浄水場の東村山浄水場への移転】

戦後の高度経済成長の伴う東京の人口・経済の増加により水需要が増大する。このために利根川の水源獲得、浄水設備の拡充が喫緊の課題となる。一方で、新宿の副都心整備への要請が高まり、昭和 35 年（1960）には首都圏整備委員会により新宿副都心整備計画が計画決定される。こうした中で、淀橋浄水場の東村山浄水場への拡充・移転が始まる。この浄水場の移転と玉川上水・分水に及ぼす影響とその対応は「淀橋浄水場史（昭和 41 年東京都水道局発行）」では『淀橋浄水場の移転にともない、玉川上水路は、砂川地先～東村山浄水場間に分岐導水路を新設した。さらに、その下流には境浄水場の非常用取水口がありまた、玉川上水路には徳川時代から 16 ヲ所の分水の分れかあつて、現在でも取水権をもっているの、その必要水量は当然確保しなければならない。』として、分水口の整備については次のように対応するとしている。

『(ア) 砂川、東村山間導水路が完成すれば、常時、羽村で取水し玉川上水路とこの導水路を利用して最大限の導水をし、貯水池の水は大部分境浄水場へ導き、特別の時にのみ貯水池の水を使用した方が維持管理上得策であるから、羽村～砂川間は現状と変わらない。羽村～砂川間の流量が減少することがあつても、各灌漑用の分水地点の直後の所に角落しを設けることによって、水位を上げ、分水路への分水は可能である。このため羽村～砂川間の玉川上水路は大体现状のまま使用できる見込であり、羽村～砂川間の福生、熊川、殿谷、拝島、砂川、源五右衛門の各分水は現状と変わらない。

(イ) 小川、野火止の各分水は、新導水路（砂川～東村山間）から分水する。

(ウ) 千川、品川の各分水は、砂川堰よりその必要量毎秒 0.7 m³を玉川上水路に溢流さ

せることによって、取水可能である。

(エ) 境浄水場の排水路として、また村山、境線導水路の事故による排水路として現状のままとする。すなわち、牟礼、鳥山、北沢、下高井戸、三田の各分水は合計毎秒 0.38 m³を必要とするが、境浄水場より常時毎秒 0.5 m³が排水されるので、これを取水する堰を 4 ヲ所に設けて取水できるようにする。このうち、鳥山、北沢の両分水については同一の堰を使用できる。(※引用文中では 16 の分水中の「立川分水」が欠落している)』

この結果、玉川上水については、次のように 3 分割して維持することとされた。

- 羽村から砂川までに玉川上水路は現状を維持し、新導水路で東村山浄水場へ。
 - 砂川から境浄水場までは、緊急時の配水路として維持。
 - 境浄水場から下流は境浄水場からの配水で既存分水の水利を守るために維持とした。但し、下流区間は既に、淀橋浄水場整備に伴う中野区和田からの予備水路への移行と淀橋浄水場下流から四谷大木戸までの余水排水のみの利用によりさらに 2 区間に区分される。
- 一方、分水路については、
- 羽村から砂川までの 7 分水は現状維持。
 - 砂川から、小川、野火止用水の分水。
 - 砂川での千川・品川用水の越流による分水量の確保。
 - さらに、下流の 5 分水には境浄水場からの排水を充当されることとなった (図 1-1 参照)。



図表 1-1 淀橋浄水場移転のための配水幹線と玉川上水と分水路
(出典:淀橋浄水場史昭和 41 年 編集・発行東京都水道局)

②玉川上水・四谷大木戸下流区間の水系の変容

玉川上水開削前後の四谷大木戸から下流の水系の変化を、江戸時代から淀橋浄水場移転の時期まで俯瞰して整理すると次のようになる。

【神田川と神田上水】

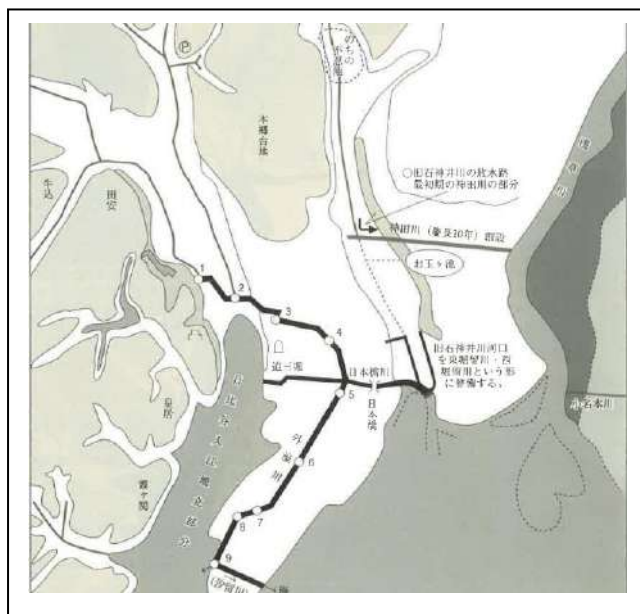
神田川はもともと平川と呼ばれ、現在の飯田橋から日本橋川方向へと流れていた。江戸幕府が開府された直後の天正 18 年（1590）に関口から堰上げた神田上水が江戸市街までひかれる。

【神田川の開削と日本橋川との分離】

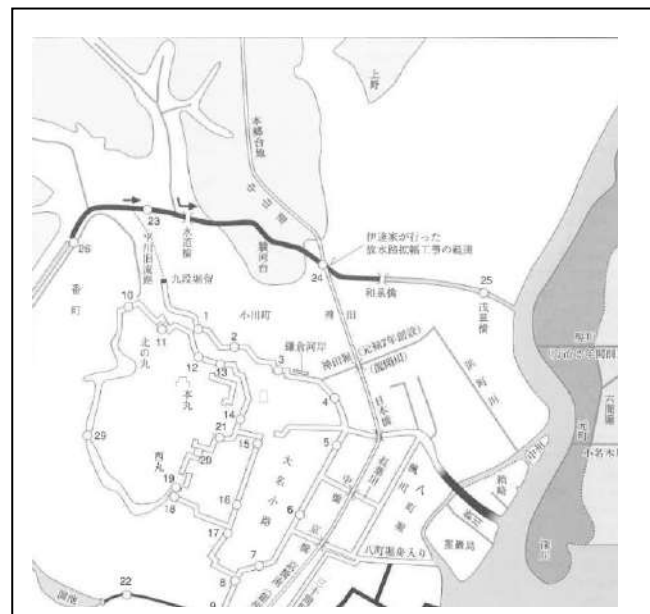
元和 2 年（1616）から 6 年（1620）の間に現在の飯田橋からお茶の水から隅田川へ抜けるルートが開削され、同時に日本橋川の三崎橋から堀留橋間が埋めてられ神田川から分離された。また、お茶の水の神田上水の懸樋も築造され江戸市中への上水が確保された。

【外濠の開削】

寛永 13 年（1636）に外濠の開削が始まり、神田川へ通じる外濠が形成される。外濠の水源は周辺の処々の用水を集めてきた、細々としたものがあったと考えられている。



図表 1-2 第 1 次天下普請（慶長 10-13 年）による水路の付け替え出典：江戸・東京の川と水辺の事典



図表 1-3 大江戸成立後の江戸の水系出典：同左

【玉川上水開削と外濠】

承応3年（1654）に四谷木戸から四谷見附、半蔵門を經由して江戸城と江戸市街南側へ供給する上水ルートが整備される。この折、四谷見附から外濠への余水吐の移行が遺跡調査で発掘されたとして、北原糸子氏は「江戸城外堀物語」で次のように述べられている。『玉川上水は外堀構築18年後の承応3年（1654）に完成したされている。この上水は従来上水としての側面にもっぱら関心が注がれてきた。しかし、外堀に余水吐け口が設けられていることから、堀用水でもあったわけである。このことは、外堀の発掘を通して認識されてきたことである。』さらに、『（外堀の開削から）20年にも満たない歳月で玉川上水が完成されたこと自体が、すでにこうした全体的な都市開発プログラムの中に組み込まれていたと考えてみる必要がある。』としている。

このことは、玉川上水が四谷大木戸より上流の武蔵野台地上の分水網による上水・用水の供給や江戸市街地への水道供給と、低地河川への養水、地下水涵養などの地域の豊かな水循環の涵養との、重層的な構造をなしていると見ることができる。

さらに、玉川上水の構想自体が、羽村から江戸市街地、江戸城・外濠、日本橋川へ連なる基本軸と武蔵野台地から北側の野火止用水と新河岸川舟運との連動なども含む、広大な地域開発の展開を示唆しているとも言える（2015年度「玉川上水・分水網の構成と関連遺構に関する調査」参照）。

こうした、上水・用水と地域の水循環を支えた構造は、江戸時代から明治時代後期まで維持されていた。

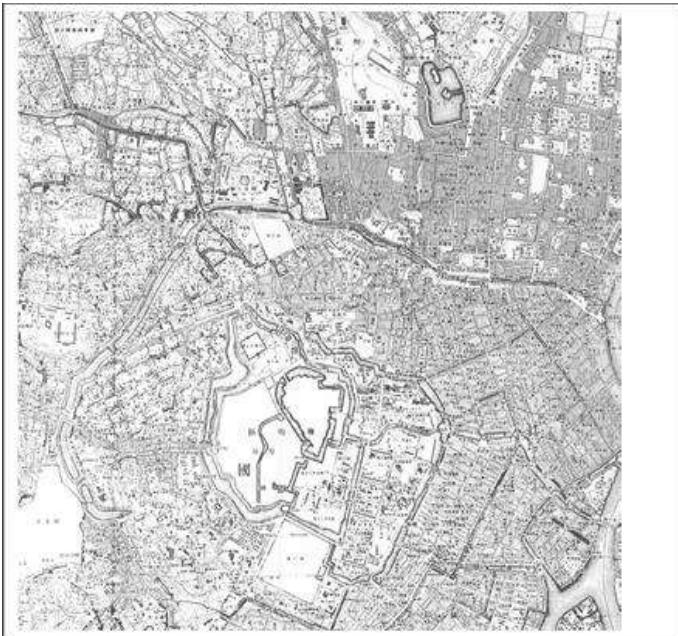


【明治後期の水道改良事業と神田川・日本橋川連結】

明治中期より市区改正により近代的な水道整備の機運が高まり、明治 31 年(1898)には淀橋浄水場が竣工し、神田・日本橋方面の水道供給が始まる。これにより、淀橋浄水場から下流の玉川上水は淀橋浄水場からの余剰水が流れるようになる。これにあわせ、大正末期には新宿御苑北側の水路も暗渠となり道路として整備される(芳賀善次郎「新宿の散歩道」昭和 47 年 10 月 三交社)。

その後、旧甲州街道(現 新宿通り)の整備に伴い、江戸時代からの四谷見附から半蔵門に至る管路は撤去され、昭和 12 年(1937)に新たに淀橋浄水場・半蔵門間に余剰水を導水するための管路が敷設される(環境省皇居外苑管理事務所 平成 20 年度皇居外苑濠管理方針検討会水質改善対策分科会第 2 回資料)。そして、昭和 40 年(1965)の淀橋浄水場移転に伴い、余剰水の供給も止まり江戸時代から続いたお濠の維持システムは終焉を迎える。

一方、近代的な都市改造に伴う鉄道整備。河岸・舟運の拡充等により神田川と日本橋川に連結する等の河川改修が行われ、玉川上水に関連する水のシステムは大きく変貌する。



図表 1-5 明治中期のまで分離されていた日本橋川
(明治 18 年陸地測量部迅速測図)



図表 1-6 旧神田川(平川)の開削による日本橋川と
の連絡(大正 6 年測量図)

(3) 玉川上水の現状と区間区分

玉川上水の開削時から現在までの水利システムの変容過程とその特徴が、現在の玉川上水にどのように反映されているか、区間区分して整理を試みた。対象区間は、玉川上水の水循環的な側面から評価するために、羽村堰から外濠までとした。

この区間区分ではまず、江戸時代のからの開渠の区間と暗渠の四谷見附・半蔵門いたる水道区間に大きく区分される。四谷見附から下流は、自然の流れからすればかつての神田川の旧流路である平川筋の日本橋川へと連なる。

一方、四谷大木戸から上流の羽村堰の区間は地理的には、羽村堰から関東ロームの各層を斜めに横断し武蔵野台地上面の小平監視所までの区間、小平監視所から神田上水の水源である井の頭池までの区間さらに、井の頭池から四谷大木戸までの区間に区分される。この区分を基本に、現在の水利システム、空間管理、維持管理制度の区分などを加味してみると次のように再整理される。

- I. 水道原水流下区間(羽村堰～小平監視所)
- II. 環境用水流下区間 (小平監視所～浅間橋)
- III. 暗渠区間 (浅間橋～四谷大木戸)

各区間の特徴を見ると、I. については拝島周辺の立川段丘面に出るあたりで初めて左岸に殿ヶ谷分水が分水され、右岸にも拝島分水が流れるなど一つの区切りとなる。

II. の区間は水利的には大きく境橋周辺で区分される。千川上水・品川用水の分派点であるだけでなく、境浄水場が整備されたため、この区間まで緊急時の水道原水の補給ルートとして維持されていることがあげられる。境橋下流では、かつては神田上水の補給路があった井の頭池が大きな分節点であったが、現在では、三鷹駅周辺の長い暗渠区間がありここが一つの区切りになっている。

浅間橋下流のIII. の区間については、甲州街道を横断する和泉給水所周辺が大きな区切りとなる。ここは、淀橋浄水場の建設にあわせ新水路が整備された地点であり、ここより下流は淀橋浄水場の副次的ルートとなる。さらに下流側では、淀橋浄水場からの余剰水を外濠、内濠に導水するために新宿駅周辺で横断し、その下流では下水道が共架されるなど構造が大きく異なる。このため、新宿駅周辺が一つの結節点となっている。

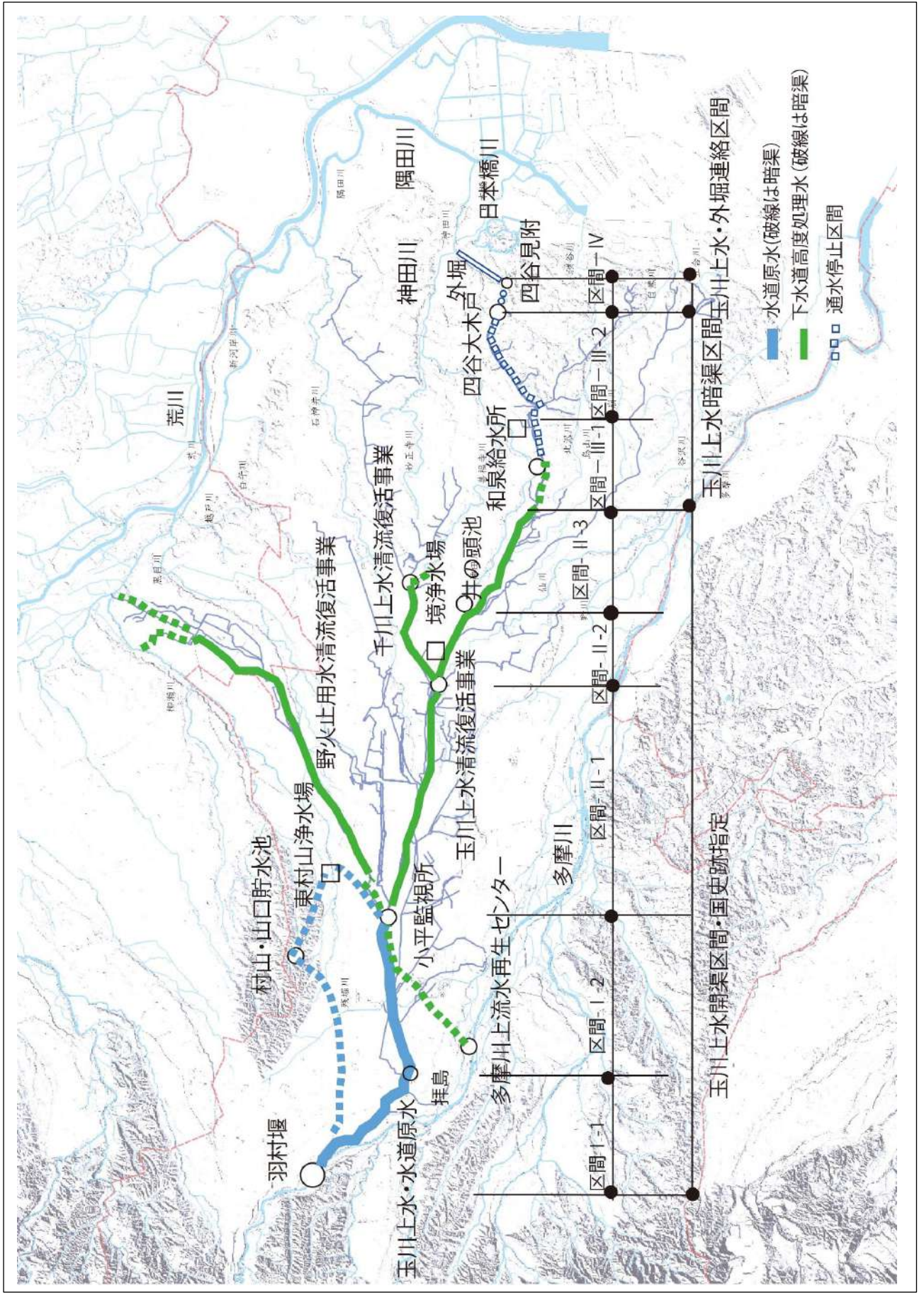
なお、四谷大木戸から四谷見附を経て半蔵門へ至る区間は、近代水道の敷設に伴い河川性が流れなくなり外濠、内濠の水質が悪化したといわれている。このため、昭和12年に淀橋浄水場の余剰水の導水する管路が敷設されたが、それも昭和40年の淀橋浄水場の移転に伴い導水停止となっている。

これらの、水利システムから見た現況の区間区分を整理すると図表1-8となる。

図表 1-7 玉川上水本線の区間区分

区分	区間	距離(km)	水利	特徴	
I	I-1	羽村堰—平和橋	5.29	水道原水導水	羽村堰から立川段丘面に至る区間 一部区間側道がない
	I-21	平和橋—小平監視所	7.21	水道原水導水	上水路としての管理
		小計	12.5		
II	II-1	小平監視所—境橋		緊急時の境浄水場への導水ルート 環境用水流下	上流区間に小川分水が流れる 下流区間は国指定名勝小金桜
	II-2	境橋—三鷹駅		環境用水流下	上流との一体的水路管理 千川上水分岐
	II-3	三鷹駅—浅間橋		環境用水流下	水路管理は粗放化樹林繁茂 井の頭公園隣接
		小計			
III	III-1	浅間橋—和泉給水所	5.00	暗渠区間(Φ1800) 環境用水は神田川に放流	上部は公園占用
	III-2	和泉給水場—新宿駅		淀橋浄水場への新水路、に代わる 暗渠区間(Φ1800)を敷設	上部は公園占用 一部開渠区間(国・史跡)
	III-3	新宿駅—四谷大木戸		ボックスカルバートに仕切板を入れ 下水道を併設	御苑隣接区間は上部にせせらぎ水路
		小計			
IV	四谷大木戸—四谷見附	1.48	昭和12年に淀橋浄水場の余剰水をお濠に導水するための管渠を敷設	浄水場移転に伴い使用停止	

図表 1-8 水利システムと玉川上水の区間の区分

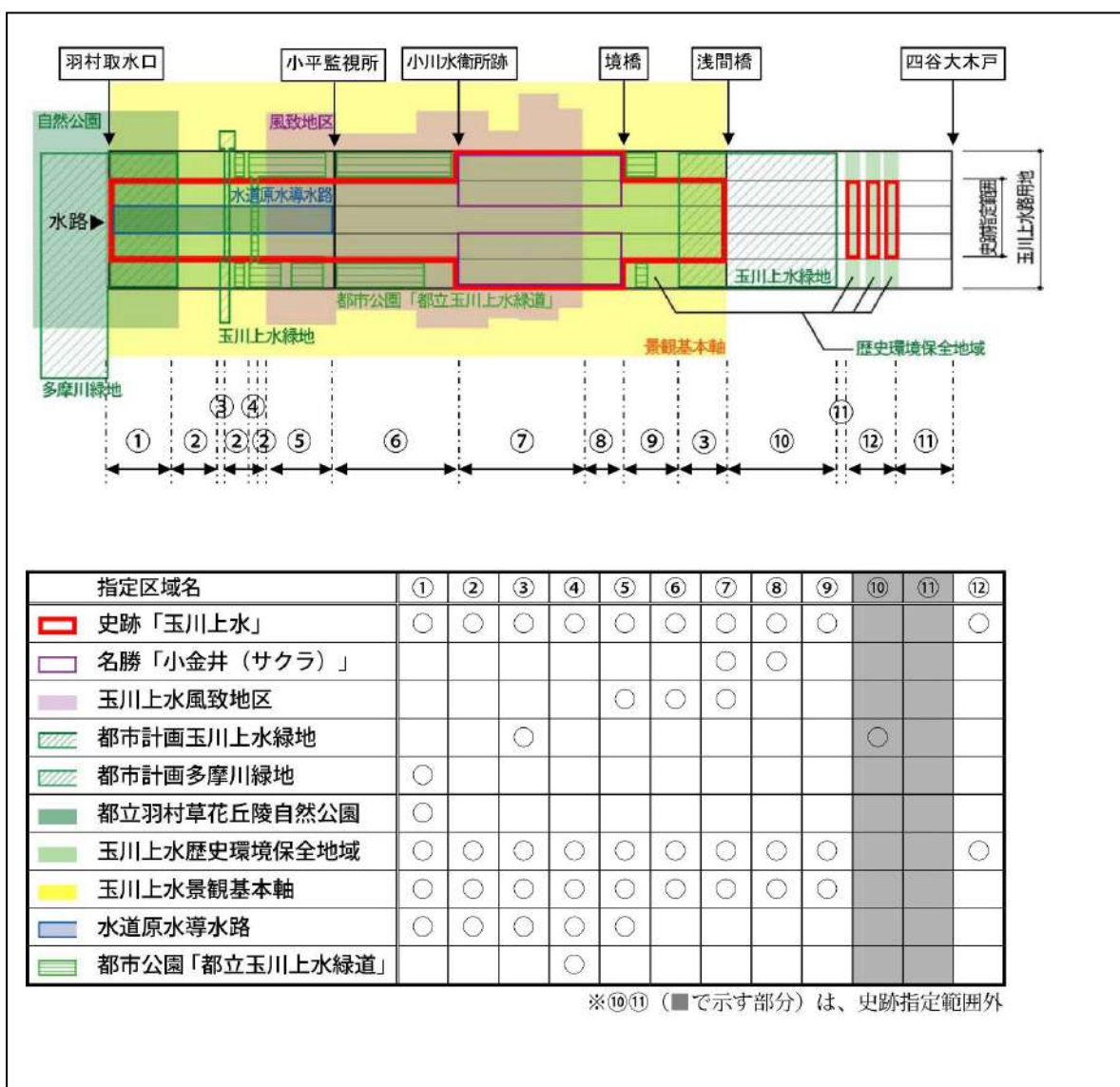


(4) 現況の玉川上水維持管理制度

①近代的水道施設整備と玉川上水

現況の玉川上水の維持管理制度は、水利システムの変化、土地所有の変化、公園緑地・史跡等の保全・管理制度が複雑に絡み構成されている。この様相は、平成 18 年度に策定された「史跡玉川上水保存管理計画書」の中で玉川上水の規制・維持管理の制度を示す図表 1-9 として整理されている。ここで示されている各制度に対応する規制・管理の内容は図表 1-10 でありさらに、各制度を年代別に整理すると図表 1-11 となる。

まず、水利システムとの対応で見ると、第 1 段階で村山貯水池、境・和田浄水場が竣工し、専用の導水路による通水始まり玉川上水路の役割が軽減される、大正 13 年（1924）



図表 1-9 玉川上水の規制・維持管理の制度

出典：史跡玉川上水保存管理計画書 平成 19 年 3 月東京都水道局

図表 1-10 規制の概要

法律・条令	指定区域	幅 (m)	延長 (km)	面積 (ha)	年	規制内容	助成/報酬金	計画・ガイドライン	計画内容 その他	概要
文化財保護法 (文化庁)	史跡 玉川上水		30		2003		保存活用計画			4区間にわけて保存管理、重点整備、活用拠点施設整備 保存整備：水路・法面・並木の保全 活用整備：敷設 路等の改善、説明版の設置、フェンスデザインの企画 調、散策マップの作成 PR活動
	名勝 小金井(さくら)		6		1923	現状変更許可	補助			
都市計画法(国 土交通省)	玉川上水風致地区				1962	建築物 宅地造成・木竹伐採・土石採 取・干拓・緑化基準	生涯・緑化助成		立川・小平・小金井が条例で運用	
	玉川上水緑地 多摩川緑地			26.9	1957 1957	(公園設計基準) 出入口・接道・車止 め・形状句配・園路・排水・風情				
自然公園法(環 境省)	都立羽村身延丘自然公園			553	1953	園形園出 丘背・土石採取、土地の形状 変更	ボランティア助 成/協力費		自然公園設計書	
都市公園法(国 土交通省)	都立玉川上水緑道			13.1	1981			緑道マネジメントプラン	トイレ整備 ボタル祭り 道路管理者との基本協定	「パークマネジメントマスタープラン」(平成27年3月) ・都 立自然公園緑地の整備方針(改訂) (平成25年12月) ・緑 道利用ガイドライン (平成18年3月) ・東京都長官指 令(平成25年12月) ・高層住宅「都立計画マスター プラン」(03年4) ・環境計画「緑の基本計画」(00 年4) ・公園条例「緑と水の基本計画」(04年3月) ・東京 都政のまちづくり推進計画(平成26年3月)
景観法(国土交 通省)	玉川上水景観基本軸			200	2011	建設物届出(設置・高さ・形状・形勢・ 色沢、色彩)		景観ガイドライン(活用本市 区)		
	玉川上水歴史風情保全地域			30	1999	建築物新築・増改築 宅地造成・土石採 取・木竹伐採・干拓 素掘水路の改良 保存 民軒等は観察路以外立入禁止		保全活用ガイドライン	自然樹生と安全の考え方 植栽事業 小金井クラブと は?(公園?) 野火止も	
遊歩法	占用公園緑地 遊歩道・遊路									杉並・世田谷・新宿区 市・区
水道法(厚生労 働省)	水道原水導水路					施設設計基準 水質	水道料金		フェンス 立入規制	
下水通法										
特殊公園	武蔵野児童地 井の新公園				M13					
				40.1						

に、小金井桜の国名勝指定がなされる。また、下流側の和田浄水場下流では市街地化の進展に伴い一部区間の暗渠化、上部の道路・公園による占用利用が始まるが、中上流部では水道局により一元的な水路管理がなされていた。

この第1次水道拡張事業は昭和11年(1936)に終わり、同時に小河内ダム、東村山浄水場整備を含む、第2次拡張事業が始まる。第2次拡張事業は第2次世界大戦をはさみ、昭和32年(1957)に竣工する。この事業により、小河内ダム・村山貯水池・東村山浄水場・和田浄水場・淀橋浄水場を連絡する東京の骨格となる水道システムが形成される。同時に、玉川上水路の東京の水道システム上の役割は副次的になり、水路保全のための玉川上水の都市計画緑地指定、その5年後には風致地区指定が行われる。その背景に高度経済成長経済の進展に伴う東京への経済・人口の過剰、市街地の外延的拡大があったことは言うまでもない。

年代	文化財法	都市計画	自然公園	自然の保護と保全に関する条例	景観法	都市公園法
大正13年	1923 国指定名勝 小金井桜					
昭和28年	1953		都立羽村草花丘陵 自然公園			
昭和32年	1957	都市計画緑地※ ①玉川上水緑地(東京) ②玉川上水緑地(三鷹) ③井の頭公園 (種別:特殊公園・風 致以外)				
昭和37年	1962	玉川上水風致地区				
昭和56年	1961					都立玉川上水緑道 ※ (福生市～杉並区の 区間)
平成11年	1999			玉川上水歴史環 境保全地域		
平成15年	2003	国指定史跡				
平成23年	2011				玉川上水景観 保全軸	

水路沿いにもおよび規制
 水路を含む機影

概要

その他の維持管理

浅間橋下流暗渠
区間占用公園

杉並区:玉川上水公園、玉川上水永泉寺緑地、玉川上水第二公園、玉川上水第三公園
世田谷区:玉川上水緑道、玉川上水第二緑道
新宿区:玉川上水内藤新宿分水散策道

市管理遊歩道、道路管理は含まない

土地所有等

昭和58年 玉川上水保全協議会(政策報道局、都市計画局、環境保全局、建設局、教育庁、水道局)
昭和61年 玉川上水清流復活事業
平成9年 玉川上水保存管理指針
平成11年 国有財産(里道・水路等)の町村への移譲
平成15年 玉川上水の土地所有・都の確認

図表 1-11 年代別の維持管理制度

②昭和 40 年代以降の玉川上水の管理

東京の基幹的な水道システムが完成する昭和 30 年代以降、深刻な水不足が発生。利根川・荒川の広域的な水利システムとの連携が始まり、昭和 40 年(1965)には淀橋浄水場の移転、東村山浄水場の拡張・併設が行われる。この時点で、玉川上水の水道施設としての役割は羽村一小平監視所までの区間となり、その下流は一部分水への配水に限定され水道施設としての役割は終える。

維持された分水は、羽村一小平監視所間の 6 分水(福生・殿ヶ谷・拝島・柴崎・砂川源右衛門分水)、小平監視所での 4 分水(野川・小川・千川・品川分水)、境浄水場下流の 5 分水(牟礼・烏山・北沢・下高井戸・三田分水)合計 12 分水まで減少していた。その後、土地利用の転換などにより用水の需要は減少し、昭和 40 年代後半には、羽村一小平監視所間の 4 分水(福生・拝島・柴崎・砂川)と小平監視所で分水する小川分水以外は通水停止となり、昭和 50 年代には小平監視所下流の玉川上水路には河川水は流れなくなり空堀となった。

こうした中で、水道局により一元的に管理されてきた玉川上水は、通水停止による空堀化、藪化の進行と管理の粗放化が相まって、沿川自治体・市民からの管理・保全の要望が高まる。一方で、昭和 50 年代後半には水路部分は水道管理として維持され、周辺の通路等は公園・緑道管理するなど横断方向に区分した管理が導入される。

さらに、昭和 61 年(1986)には空堀へ下水道の高度処理水の導水、平成 15 年(2003)には国の史跡指定など、水道・下水道の管理制度、公園・緑地制度・文化財保護等が重なり合った制度に加え、国、都、市区の自治体が絡んだ、きわめて複雑な体制による管理が行なわれることとなった。

2. 地誌・教科書等に見る玉川上水への眼差しの変化

(1) 玉川上水が扱われている地誌・教科書等

玉川上水は、明治時代後期までは、江戸・東京の基幹的な上水道であり厳しい管理下に置かれていた。その中でも例外的に元文2年（1737）吉宗の命により、小金井桜が植えられ、その区間のみ江戸庶民にも知られるようになる。

特に、幕末の文化～天保年間（1804～1844）には絵図、浮世絵に多く登場し小金井桜のみが特異な場所として、文人、墨客のみならず多くの庶民が訪れ、賑わいを呈するようになる。この構図は、東京の近代的な水道システムが形成される明治中期まで大きくは変わらない（図表2-1参照）。

明治中期になると淀橋浄水場の整備が始まり、近代的な水道施設への移行とともに玉川上水の役割は副次的になり、管理も市民の意識も徐々に変化する。この過程を一般に流布されていた絵図、明治時代以降の地誌等でたどってみたい。

資料は、幕末から昭和までの一般に流布されていた絵図、地誌、教科書で写真等により玉川上水・分水路および、関連する水道施設を取り上げている図書とした。

この結果ここでは、図表2-2に示す20の図書が対象として挙げることにした。なお、近年になって歴史的に編纂された玉川上水関連図書は同時代性が弱いため、参考として副次的に取り扱うことにした。

この20の図書から、関連する写真、画像を抽出したリストは図2-3に示すとおりであり、全部で128葉の写真、図を抽出することができた。



図表2-1 富士三十六景 武蔵小金井
歌川 広重 （天保年間）

区分	No.	著者・編者	名称	発行	発行年代	
絵図	1	斎藤幸雄・幸孝・幸成	江戸名所図会第4巻 天璣之部		天保7	1836
地誌	2	大町 桂月	東京遊行記	大倉書店	明治39年	1906
教科書	3	山本三生	日本地理大系第3巻 大東京編	改造社	昭和5年	1925
写真集	4	伊藤 照久	日本地理風俗大系 第2巻	新光社	昭和6年	1931
	5	岩波書店編集部	岩波写真文庫201東京	岩波書店	昭和31年	1956
	6	下中弥三郎	世界文化地理大系第3巻日本Ⅱ関東	平凡社	昭和32年	1957
	7	東京都教育委員会	都内見学	東京都教育委員会	昭和33年	1958
	8	小学館	図説日本文化地理大系第2巻関東1 総説東京	小学館	昭和38年	1963
	9	木内 信蔵	日本の文化地理 第6巻 東京	講談社	昭和43年	1968
	10	多摩中央信用金庫	多摩の歩みとともに	多摩中央信用金庫	昭和49年	1961
	11	旺文社	図説学習日本の地理6 関東地方	旺文社	昭和52年	1977
	12	東京都社会科教育研究会	わたしたちと東京	明治図書出版	昭和55年	1980
	13	秋谷豊	残照の武蔵野	桐原書店	昭和56年	1981
	14	波多野 公介	朝日旅の百科 東京の旅③武蔵野	朝日新聞社	昭和56年	1981
	15	波多野 公介	朝日旅の百科 東京の旅④	朝日新聞社	昭和56年	1981
	19	波多野 公介	朝日旅の百科 東京の旅①	朝日新聞社	昭和55年	1980
	16	宮沢 守 他	カメラ風土記東京Ⅱ	保育社	昭和56年	1981
歴史	17	写真集多摩川は語る編集委員会	写真集 多摩川は語る	東京立川ライオンズクラブ	昭和60年	1985
	18	多摩百年史研究会	写真集・眼で見る多摩の一世紀	(財) 東京市町村自治会	平成5年	1993
	20	東京都水道局	淀橋浄水場史		昭和41年	1966
関連文献	19	多摩川誌編集委員会	多摩川誌	河川環境財団	昭和61年	1986
	20	羽村市郷土博物館	玉川上水-市の歴史と役割一	羽村市教育委員会	昭和61年	1986
	21	小坂 克信	玉川上水と分水	新人物往来者	平成元年	1989
	22	比留間博	玉川上水	たましん地域文化財団	平成3年	1991
	23	仲村和郎他	日本の自然 地域編3関東	岩波書店	平成6年	1994
	24	村松昭	玉川上水散策絵図	聖岳社	平成14年	2002
	25	鈴木理生編著	江戸・東京の川と水辺の事典	柏書房	平成15年	2003

図表 2-2 玉川上水・分水網が掲載されている地誌・教科書等

図表 2-3 抽出した玉川上水の絵図・写真

(1)

玉川上水に関連する絵図・写真リスト		著者・編者	名称	発行者	発行年代	頁	番号	タイトル	撮影年代	場所	水系	摘要	
1 斎藤幸雄	幸成(月吟)	江戸名所図会第4巻 天機之部	1	井の頭池弁財天社	1836 天保7年	①	井の頭池						
			2	小金井橋香泉		②	小金井橋香泉						
			3	小白下大洗堰		③	小白下大洗堰						
			4	菜園の堰 内川		④	菜園の堰 内川						
			5	野火留		⑤	野火留						
			6	小金井の堰	明治39年	196 ①	小金井の堰						
2 大町 桂月	東京旅行記	大倉書店	1	井の頭池		346 ②	井の頭池						
			2	玉川庄右衛門と清右衛門	1925 昭和5年	282 ①	玉川庄右衛門と清右衛門						
3 山本三生	日本地理大系第3巻 大東京編	改訂社	1	羽村取り入口		284 ②	羽村取り入口						
			2	鶴入口下流		284 ③	鶴入口下流						
			3	住崎の排水管		285 ④	住崎の排水管						
			4	江戸時代の水道		285 ⑤	江戸時代の水道						
			5	玉川上水路(小金井橋上流)		286 ⑥	玉川上水路(小金井橋上流)						
			6	井の頭公園		322 ⑦	井の頭公園						
4 伊藤 照久	日本地理風俗大系 第2巻	新歩社	1	井の頭の池(広重)		322 ⑧	井の頭の池(広重)						
			2	小金井橋		329 ⑨	小金井橋						
			3	金井橋満花(江戸名所花暦)		419 ⑩	金井橋満花(江戸名所花暦)						
			4	水源多摩川上流		287 ⑪	水源多摩川上流						
			5	淀橋浄水場		288 ⑫	淀橋浄水場						
			6	村山貯水池		290 ⑬	村山貯水池						
			7	村山貯水池取水塔		290 ⑭	村山貯水池取水塔						
			8	浄水水場		291 ⑮	浄水水場						
			9	浄水水場水路		291 ⑯	浄水水場水路						
			10	善福寺の池		356 ⑰	善福寺の池						
5 岩波書店編集部	岩波写真文庫201 東京	岩波書店	1	玉川上水(浄水水場付近)	1931 昭和6年	357 ⑱	玉川上水(浄水水場付近)						
			2	近郊農村景(善福寺池下流)		359 ⑳	近郊農村景(善福寺池下流)						
			3	浮橋給水所		364 ㉑	浮橋給水所						
			4	井の頭の池		368 ㉒	井の頭の池						
			5	桜の名所小金井		357 ㉓	桜の名所小金井						
			6	ねりま本郷	1958 昭和31年	60 ㉔	ねりま本郷						
6 下中 三郎	世界文化地理大系第3巻 日本Ⅱ 関東	平点社	1	空から見た武蔵の名残	1957 昭和32年	16 ㉕	空から見た武蔵の名残						
			2	関東の農業・大根洗い		40 ㉖	関東の農業・大根洗い						
			3	台地の開拓・野火止用水		123 ㉗	台地の開拓・野火止用水						
			4	妙正寺川		124 ㉘	妙正寺川						
7 東京都教育委員会	都内見学 図説日本文化地理大系第2巻 関東Ⅰ 総説東京	小学館	1	武蔵野の街道		131 ㉙	武蔵野の街道						
			2	三鷹市付近・道祖神七分水		131 ㉚	三鷹市付近・道祖神七分水						
			3	小金井場		301 ㉛	小金井場						
			4	羽村取水場	1958 昭和33年	193 ㉜	羽村取水場						
			5	練馬ダイコン	1963 昭和38年	98 ㉝	練馬ダイコン						
			6	玉川上水		96 ㉞	玉川上水						
8 小学館	図説日本文化地理大系第2巻 関東Ⅰ 総説東京	小学館	1	青梅街道		273 ㉟	青梅街道						
			2	井の頭公園		275 ㊱	井の頭公園						
			3	武蔵野の湧水と部落		277 ㊲	武蔵野の湧水と部落						
			4	武蔵野新田		279 ㊳	武蔵野新田						
9 木内 信蔵	日本の文化地理 第6巻 東京	講談社	1	江戸上水道・水路および給水図	1968 昭和43年	72 ㊴	江戸上水道・水路および給水図						
			2	砂川用水		72 ㊵	砂川用水						
			3	加藤兄弟の像		72 ㊶	加藤兄弟の像						

No.	著者・編者	名称	発行者	発行年代	頁	番号	タイトル	撮影年代	場所	水系	摘要
					195	③-1	水鏡絵利権川拡張事業				
					209	④	新宿副都心の建設				
10	多摩中央信用金庫	多摩の歩みとともに		1961	昭和49年	73	① 玉川上水(五川)				
11	旺文社	図説学習日本の地理6 関東地方	旺文社	1977	昭和52年	96	① 羽村取水堰				
						97	② 砂川新田				
						97	③ 武蔵野台地の新田開発				
12	東京都社会科教育研究会	わたしたちと東京	明治図書出版	1980	昭和55年	64	① 昭和3年頃の新宿西口のようす				
						64	② 現在の新宿副都心のようす				
						77	③ 玉川上水の取り入れ口				
						78	④ 昔の玉川上水(小金井付近)				
						78	⑤ 小金井付近の玉川上水				
						79	⑥ 木のどいや石のようす				
						79	⑦ 四谷水番所の跡				
						83	⑧ 井の頭池				
						83	⑨ 神田川流出口				
						84	⑩ まいまい井戸				
						87	⑪ 玉川上水の記念碑				
						87	⑫ 今も流れる分水(小川分水)				
13	秋谷豊	残照の武蔵野	桐原書店	1981	昭和56年	75	① はげの道				
						76	② はげの道				
						78	③ 大幸よー玉川上水				
14	渡多野・公介	朝日旅の百科 東京の旅⑨ 武蔵野	朝日新聞社	1981	昭和56年	21	① ルートマップ①井の頭公園と周辺				
						20	② 玉川上水の新橋付近				
						20	③ 七井の橋から弁財天堂が美しい				
						21	④ ルートマップ②小金井堤と小金井公園				
						21	⑤ さくら折るべからずの碑				
						21	⑥ 塔舟水場				
						21	⑦ 小金井公園				
						31	⑧ ルートマップ③久米川から東久留米				
						31	⑨ 野火止用水の水				
						31	⑩ 万年橋のケヤキ				
						38	⑪ ルートマップ④玉川上水沿いに砂川へ				
						38	⑫ 落ち葉を浮かす晩秋の玉川上水				
						38	⑬ 雑木林の中を歩く玉川上水沿いの遊歩道				
						39	⑭ その昔は船着場であった巴河岸跡				
						39	⑮ 残堀川旧水路				
						39	⑯ 砂川分水・嵯峨面分水取入口				
						48	⑰ 玉川上水 見影橋(巴河岸跡)				
						18	⑱ 金目懸橋付近の遊歩道				
						19	⑲ 国立市の南段丘のハケ				
						43	⑳ 香煙道の季節 井の頭公園				
15	渡多野・公介	朝日旅の百科 東京の旅④	朝日新聞社	1981	昭和56年	32	① ルートマップ⑤玉川上水を羽村へ				
						32	② 玉川兄弟の銅像				
						32	③ 多摩川の水は羽村堰でせき止め玉川上水へ				
						32	④ 跡天部のまいまい井戸				
						32	⑤ 水神社脇に残る陣屋門				
						32	⑥ 酒造場の煉瓦の煙突				
						20	⑦ 新宿南辺マップ				
19	渡多野・公介	朝日旅の百科 東京の旅①	朝日新聞社	1990	昭和55年	27	② 玉川上水沿いの児童公園				

(3)

No.	著者・編者	名称	発行者	発行年代	頁	番号	タイトル	撮影年代	場所	水系	摘要
					26②		杉並周辺マップ				
					26③		玉川上水沿いの児童公園				
16	宮沢 守 他	カノ風土記東京Ⅱ	保育社	1981昭和56年	46①		井の頭公園				
					48②		小金井公園				
17	写真集多摩川は語る編集委員会	写真集 多摩川は語る	東京立川市役所	1985昭和60年	100①		江戸時代の羽村堰				
					101②		羽村の堰と噴泉				
					101③		羽村堰の水循環				
					102④		羽村取水口堰下				
					102⑤		茶木の羽村堰				
					102⑥		羽村取水口入れ口				
					103⑦		阿蘇神社の堰を流れる羽用水				
					104⑧		羽村のまつり				
					109⑨		拝島の水車				
					109⑩		拝島の水車				
18	多摩百年史研究会	写真集・目で見る多摩の一世紀	(財)東京市町村自治体連合会	1993平成5年	28①		小平上空より青梅街道西方を望む	年代不明	昭和32年	小平	青梅街道小川分水
					28②		井の頭公園御殿山	年代不明	三鷹		
					35③		台風の来前に増水した羽村取水堰	明治初期	昭和59年	羽村	
					40④		羽村の堰	明治初期	羽村		
					41⑤		酒造所の分水	大正時代	昭和51年	拝島	福生分水
					40⑥		拝島堰	昭和10年代	三鷹		拝島分水
					41⑦		茶室 深澤玉川上水(玉川上水を導くため築かれた高き)	昭和10年代			
					42⑧		小倉井の堰(榎野橋)	年代不詳			
					42⑨		野火止用水	年代不詳	昭和52年	小金井	
					52⑩		五日市街道園野橋	年代不詳	昭和52年	小金井市	
					52⑪		五日市街道けやき並木	年代不詳	昭和52年	武蔵野市	
					105⑫		水辺の作業(天神山下)	年代不詳	昭和7~8年	三鷹	(野川)
					125⑬		深大寺周辺の用水で選択する土壌	年代不詳	昭和28年	調布市	
					①		取水所下流の玉川上水跡	年代不詳		羽村	
					②		武蔵野の時間を流れる上水路	年代不詳		小金井市	
20	東京都水道局	淀橋浄水場史		1966昭和41年							

(2) 玉川上水への眼差しの変化

①写真・図の時代別・区間別区分

出版年代と写真等の撮影年代の相関が高いと判断される 17 の図書から抽出した図と写真を、次に示す時代区分、玉川上水の区間区分で整理した。

【時代区分】

近代的水道施設の整備と玉川上水との関連を基本として次のように時代区分する。

I. 江戸時代後期から明治時代中期

江戸時代からの玉川上水を基軸とした水道システムの継続。

II. 明治中期から昭和初期

近代的な改良水道事業の着手、淀橋場の整備、下流区間の用水路化

III. 昭和 20 年代から昭和 40 年代

小河内ダム・村山貯水池・東村山浄水場等の東京の基幹的な水道施設の形成、玉川上水系統の副次的役割への転換

IV. 昭和 40 年代から昭和 55 年

淀橋浄水場の東村山浄水場への移転、多摩川からの河川水を小平監視所から東村山浄水場へ直送。小平監視所下流は、分水の用水補給のみとなり激減。昭和 50 年には取水停止となる。

V. 昭和 55 年以降

分水の取水停止に伴い玉川上水は空堀となる。一方で、羽村堰-小平監視所までは従来通り水道局管理となるがそれより下流の水路以外の空間に、公園管理が導入される。その後、環境用水の導入、国の史跡指定へと展開する。

一方、玉川上水の区間区分は本線と分水等の水利システムとの関連で次のように分する。

【玉川上水の区間区分】

A. 多摩川水源区間

B. 羽村堰から小平監視所

- ・羽村堰
- ・羽村堰-小平監視所間の分水、新田開発
- ・羽村堰-小平監視所間玉川上水路

C. 小平監視所-井の頭池

- ・小平監視所-小金井桜間分水路など
- ・小平監視所-小金井桜間玉川上水路

- ・小金井桜下流一井の頭池間玉川上水路
- ・小金井桜下流一井の頭池間分水路等

D. 井の頭池-四谷大木戸間

- ・井の頭池
- ・井の頭池-淀橋浄水場間玉川上水路
- ・井の頭池-淀橋浄水場間分水路
- ・淀橋浄水場、四谷大木戸

②年代、上・下流に区間区分のよる玉川上水・分水路への眼差しの変化

年代、上・下流に区間区分のよる玉川上水・分水路区間のマトリックスとして写真・画像を整理する図表 2-4 となる。このマトリックス全体の特徴として次の事項を指摘することができる。

【玉川上水を象徴する景観は小金井桜・井の頭池であった】

明治後期まで、玉川上水を象徴する景観は小金井桜・井の頭池(弁財天)に限定されていた。但し、小金井桜については昭和 40 年代まで継続的に紹介されてきたが、水路の荒廃とともに急速に減少し、小金井桜の取り上げ方は小金井公園とシフトする。一方、井の頭池は、弁財天・池・公園として変化しながらも現在まで継続されている。

【羽村堰が一般的な図書に登場するのは昭和初期頃から】

今でこそ玉川上水を語るとき、必ず登場する羽村堰は、幕末から大正期の図書までは取り上げられていない。関東一円の名所を扱った江戸名所図会にも触れられていない。今回扱った図書では、地誌で東京の水道と題する昭和 5 年(1930)の記事が初見となる。新しい東京の水道システムへの理解を求めめるためには、やむを得ないということだったのか。以降、羽村堰は玉川兄弟像とともに玉川上水紹介の定番となっていく。

【分水・新田開発に対する評価は昭和 30 年代以降である】

武蔵野台地に樹枝状に張り巡らされていた分水網は、昭和初期まではあまりにも日常的なありふれた風景であったのか、地誌等に登場することはなかった。それらは、区部の市街地開発が進み武蔵野の面影が急速に失われる昭和 30 年代に、郊外部の新田集落の開発、武蔵野の雑木林とあわせ分水網が再評価され取り上げられるようになる。

【昭和 55 年以降玉川上水は、地域生活と密着した自然、歴史文化の中でとれえられる傾向に】

小平監視所下流の玉川上水の水道施設としての役割は終わり、流量は激減、それもなくなり水路の藪化が進む中で、皮肉にも市民の玉川上水への関心が高

まり、多くの紹介、解説の図書が出版される。一方では、昭和 55 年頃から従来型の地誌的な出版物は激減し、地域に密着したガイドブック、散策マップなどが多く出版される。いわば生活空間の中で玉川上水・分水網に関する小さな現地情報が再評価され、共有化されるという新たなステージへと移行する。

この背景には、関連文献（図表 2-2）として示した、「多摩川誌」「玉川上水」「江戸・の川と水辺の辞典」等、玉川上水と関連する水系を体系的に取り上げた図書の役割を見逃がすことはできない。

【小平監視所下流の写真は激減する】

市民の意識が変化する中で、下水処理水である環境用水の導入も始まるが、小平監視所下流の写真は激減し、上流側の本線、分水路への写真のみが登場し、中流部の水路はほとんど省り見られない状態となる。水路にとって“清流”がいかに大切か改めて示されたとみることも可能であろう。

これらの時代とともに変化してきた時代ごとの玉川上水への眼差しを象徴する図書を挙げれば次のようになる。

【江戸時代後期から明治時代中期】

「江戸名所図絵」 玉川上水の紹介は「小金井桜」「井の頭池 弁財天」に限定される。

【明治中期から昭和初期】

「日本地理大系第 3 巻 大東京編 昭和 5 年 改造社」

東京の水道の項を設け、東京市技師 小野基樹 執筆。多摩川の水源から羽村堰、境浄水場。淀橋場まで近代的な改良水道事業の全貌を紹介している

【昭和 20 年代から昭和 40 年代】

「図説日本文化地理大系第 2 巻 関東 I 大東京編 昭和 38 年 小学館」

玉川上水と武蔵野の新田開発。集落の分水の死活の焦点を当て紹介している。

【昭和 40 年代から昭和 55 年】

「わたくしたちの東京 東京都社会科教育研究会編 昭和 55 年明治図書出版」
この時代の玉川上水に関連する図書は極めて少ない。敢えて挙げればこの社会科の副読本となる。神田上水、玉川上水の歴史から利根川・荒川の広域的な利水システムと東京の水道との関連までが意欲的に記述されている。

【昭和 55 年以降】

「東京の旅 朝日旅の百科 全 6 冊 昭和 56 年 朝日新聞社」















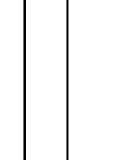
ディスカバージャパンからふるさと東京へと回帰を促した、散策マップと戻こと紹介・玉川上水・分水網と周辺の歴史文化的資産も多く紹介されている。

図表 2-4

絵図・地誌等に見る玉川上水・分水等の変遷(1)

区分	I. 江戸後期～明治中期 (江戸名所図会)	II. 明治中期～昭和初期 (日本地理大系大東亜東編)	III. 昭和20年～40年 (日本文化地理大系 関東)
A. 羽村堰上流		水資源多摩川上流(昭和5)	
B-1. 羽村堰		玉川兄弟像(昭和5) 羽村取り入れ口(昭和5)	羽村の取水場(昭和33) 台地の開拓野火止
B-2. 羽村堰下流分水等	野火止用水宗圓の里	村山貯水池(昭和5)	加藤兄弟の像
B-3. 羽村-小平		堀入口下流(昭和5)	
C-1. 小平-小金井分水			武蔵野新田・小川(昭和32) 小金井桜(昭和38)
C-2. 小平-小金井小壺井桜	小金井の桜(明治39)	桜の名所小金井(昭和5) 境浄水場付近(昭和6)	武蔵野の桜村(昭和43) 玉川上水(立川)
C-3. 小金井-井の頭	小金井橋(天保7)		
C-4. 小金井-井の頭分水等	名所江戸百景	境浄水場(昭和5)	空から見た武蔵野の名残 道祖神と品川分水 武蔵野の湧水と部落 井の頭公園(昭和38)
D-1. 井の頭池	井の頭池【明治39】	井の頭池(昭和5) 神田上水(昭和5)	大根洗い(昭和32) 練馬大根千川分水
D-2. 井の頭-淀橋			
D-3. 井の頭下流分水	目白下大流堰(天保7)		
D-4. 淀橋・四谷大木戸			

絵図・地誌等に見る玉川上水・分水等の変遷(2)

IV. 昭和40年から55年		(わたくしたちの東京)	
区分			V. 昭和56年以降 (朝日旅の百科)
A. 羽村堰上流			
B-1. 羽村堰			
B-2. 羽村堰下流 分水等			
B-3. 羽村-小平			
C-1. 小平-小金井 分水			
C-2. 小平-小金井 小金井桜			
C-3. 小金井-井の頭			
C-4. 小金井-井の頭 頭分水等			
D-1. 井の頭池			
D-2. 井の頭-深瀬			
D-3. 井の頭下流分 水			
D-4. 淀橋・四谷大木戸			
			
			

(3) 玉川上水の景観の変化—小金井桜中心として—

幕末から昭和 55 年頃までに地誌等から抽出した写真から玉川上水本線の写真のみ抽出し整理すると図表 2-9 となる。この図表から現在も水道原水の導水路となっている羽村から小平監視所間の水路の景観は、昭和初期から大きな変化は見られない。

一方、小金井桜の区間の写真を見ると、明治初期から昭和 30 年代後半までは大きな変化はないがそれ以降、上水の流量が減少するにつれ急速に藪化・樹林化が進み水路としての荒廃が進む様子がわかる。

昭和 30 年代後半までの水路景観の特徴を列記すると次のようになる。

- 水路の上端部小高く盛土されており、周辺部からの土砂流入を防ぐとともに水路際を示すサインともなっている。
- 桜は、水路上端部の小高い帯の肩の背面に植えられている。そのために落葉や周辺からの雨水が水路に落ちにくい構造となっている。
- 通路は桜と、水路沿いの小高い肩の間に確保され、桜の林間と広々とした水辺の景観を作り出している。
- 柵は無くまた、水路の護岸縁辺部は丁寧に除草され、水路護岸の保全と安全管理にも寄与している。

これらの要因が水路・流水の安定した管理そして、桜並木がかもし出す景観と調和した名勝として愛されてきた由縁でもある。



図表 2-4 小金井の桜(梶野橋 (写真集・眼で見る多摩の一世紀多摩百年史研究会 1993 刊)

一方、玉川上水路は粘性土の関東ローム層を掘削し、最大の流量を流すために掘削面が急勾配でありまた、流速も早い（勾配 4‰、流量 5 m³/S として 0.7 m³/S 程度）が特徴である。いったん落ちたら……。開放区間が限定的であったこともやむを得ないことであったのかもしれない。

また、水路に水が流れなくなると、関東ローム層の壁面は乾燥するとともに、崩落も始まる。このために水路の管理も粗放化し一機に藪化樹林化が進んでしまう。

こうした中で、昭和 56 年から水路以外の周辺空間の公園管理が始まる。

図表 2-5

桜の名所小金井

羽村堰下流の拡幅工事のために流量は低下。急勾配で切り込んだ水路が露出。

（日本地理風俗大系第 2 巻 昭和 6 年 新光社）



図表 2-6

小金井堤

東京の基幹的な水道施設が竣工。玉川上水の役割が副次的になってきた頃の小金井桜。

（世界文化地理大系第 3 巻 昭和 32 年 平凡社）



かつて玉川上水路は、人工公物であっても、河川同じように自由使用を前提とした自然公物的な管理が行われてきた。そこへ、人工公物の公園管理制度が導入されたことにより、管理の区分だけでなく管理の質を変えるために柵による空間の分節化が不可避となったとも考えられる。そしてそこに生じた景観は、昭和30年代の広々とした豊かな水辺とは全く異なる景観が形成されることになった。



図表 2-7

小金井付近の玉川上水
昭和40年淀橋場移転から
10数年後の玉川上水。
管理の粗放化、藪化・樹林
化が急速に進む。

(わたくしたちと東京
東京都社会科教育研究会
昭和55年 明治図出版)



図表 2-8

小金井桜の現況
水路と緑道の柵による分
節化。護岸沿いの桜の植
栽。見えない水面。

(平成29年3月)

	幕末から明治時代後期	昭和初期	昭和30～40年代	昭和50年代
羽村堰-小平		昭和5年	昭和41年 昭和43年	昭和56年 昭和55年
小金井	幕末 明治39年 明治後期	昭和5年 昭和5年 昭和6年	昭和32年 昭和41年	
小金井桜下流	幕末	昭和6年 昭和10年代		

図表 2-9 玉川上水路の景観の変遷—小金井桜を中心として—

第3章 市民の目を見た玉川上水・分水網

(1) 玉川上水の淀橋浄水場通水停止以降の水辺環境の変化と市民の意識

① 玉川上水の淀橋浄水場通水停止以降の環境変動

玉川上水・分水網は、昭和40年（1965）の淀橋浄水場の廃止とそれに伴う通水停止により大きく変貌する（図表3-1参照）。まず、羽村堰から小平監視所までの12kmの区間だけは、従来通り東京都の水道の導水区間として維持される。中流部では、小平監視所から杉並区の浅間橋まで、通水停止にもかかわらず約18kmが開水路とし維持。その下流の四谷大木戸までは一部区間は住民の要望により開水路として残されるものの、大半の区間は埋め立てられ、上部は公園、道路などに変貌する。この時期、特に中流部の開水路維持にあたっては、杉並区の上水路埋め立て工事を目の当たりにした三鷹市・武蔵野市住民は、昭和41年（1966）に「玉川上水を守る会」を立ち上げ、反対運動を行った成果として今も語り継がれている（図表3-1参照）。

一方、開水路として残された中流部区間は、流水がないために水路壁面の崩落、底面至るまでの低木類等の繁茂が進み、水路そのものの維持が困難となる。このため沿岸の自治体からの強い要望が相次ぎ、多摩川上流水再生センターより高度処理水を導入することとなり、昭和59年（1984）に野火止用水、60年（1985）に千川上水、翌61年（1986）に玉川上水に「清流」が復活されることとなる。この通水停止から清流復活まで約20年の歳月を要した（図表3-2参照）。

② 水辺環境の変化と住民の意識

平成23年（2011）7月に玉川上水・分水網を舞台に、歴史・自然保護をテーマに活動している市民団体が集まり、「玉川上水ネット」が構成される。この玉川上水ネットの構成団体を平成29年度の名簿で見ると、登録団体は23団体、総会員数は2800人にも達する。この登録団体の活動目的はと自然保護が約半数を占める。また、清流復活、国史跡指定を境に、地元のユネスコ協会などによる歴史文化的側面からの活動が多くなる。

また、玉川上水ネットは平成26年度に日本ユネスコ協会の主催する未来遺産の認定を受け、その活動も大きな広がりを見せ始めている（図表3-3参照）。

玉川上水保存会の創生について

武蔵野にも、又、春がやって来ました。

さて、この武蔵野のシンボルの一つである「玉川上水」は、ご存知のように、井の頭公園を水源とする神田上水でまかない切れなくなった“江戸八百八町”の水の、新たな補給水として今から三百十二年前の承応三年に玉川兄弟、工事奉公・伊奈半右衛門、松平伊豆守等の苦勞、そして数多くの農民の汗と膏と犠牲によって完成したものです。

つい最近まで、満々とした水が流れておりましたが、淀橋浄水場の閉鎖に伴って、バツリと水が止り、住宅街の辺りでは早くもゴミ、犬、猫の死骸の捨て場となって、全く見るに耐えません。これもご承知のとおりです。

この「玉川上水」を潰して道路にする計画があるらしい……とは、前々から耳にしておりました。まさかーと思っていたのですが、最近下流の杉並区内辺りでは、山桜の老木が無残に切り倒されはじめ、一部は埋立ての気運です。この分では下流の方から“なしくずし”に、噂のとおり、「玉川上水」は潰されてしまうのではないのでしょうか。これは、歴史的な意義ばかりではなく、風致上からも全く残念なことです。都で、道路計画を「正式発表」もされてしまったら最後、お役人のメンツもからんでことが面倒になります。

そこで、この「玉川上水」を末長く保存するためには、この際「玉川上水保存会」とでもいう会を作って置く必要があると思います。これが、一般に広く知られるようになれば、都に対する無言の警告、プッシュになると信じます。その時になってやれ保存陳情だの埋立て反対だのと騒ぐより、ずっと賢明ではないでしょうか。こういう会ができていれば、万一の事態が起きたとき、すぐにも活動ができると思います。

開発、発展のため、古きものの破壊が止むを得ぬ場合もありましょう。が、この「上水」は決して発展の邪魔になりません。潰されなくともすむはずです。再び通水すれば、工業用や消防用として立派に生きましよう。江戸時代から、皇居の“お濠”の水も、実にこの「玉川上水」の水であります。場当りの政策で、再び得難い歴史と風致を兼ね備えた「玉川上水」を壊してしまうことは、到底忍び難いことです。今でも、秋になれば鈴虫や松虫がこの上水で声を聞かせてくれます。ぜひとも保存したいものであります。

(中略)

何かの縁あってこそこの「玉川上水」の近くにお住いの皆さん、又、広く、この「上水」の風情を愛される皆さん、この「保存会」の創成にご賛成頂けませんでしょうか。

お忙しいところ恐れいますが、同封のハガキにお気持ちをお示しの上、ご投函下さるようお願いしております。ご賛成の数或る程度まとまり次第、早速“発会式”の手順を整えて、改めてご連絡いたします。よろしくお願い致します。

昭和 41 年 3 月 16 日

榎 本 幸 郎 生
世話人・金子 光 晴
同 ・ 田 宮 虎 彦
同 ・ 野 田 宇 太 郎

図表 3—2 昭和 40 年代以降
の玉川上水・分水網の保全再
生関連年表

年号	主な出来事
昭和40年(1965)	淀橋浄水場廃止(羽村-小平監視所まで通水)
昭和41年(1966)	玉水を守る会発足(杉並・武蔵野市民)
昭和48年(1973)	野火止用水歴史環境保全地域指定
昭和59年(1984)	野火止用水清流復活事業
昭和60年(1985)	千川上水清流復活事業
昭和61年(1986)	玉川上水清流復活事業
平成11年(1999)	国有財産(里道・水路)の市町村への移譲
	玉川上水歴史環境保全地域指定
	東京都水循環マスタープラン
平成15年(2003)	玉川上水 国史跡指定
平成19年(2007)	史跡玉川上水保存管理計画
平成23年(2012)	東京都景観計画(玉川上水景観軸)
平成24年(2012)	玉川上水サミット・中流域
平成27年(2015)	玉川上水・分水網を世界遺産・未来遺産へシンポジウム
	水循環都市東京5大学リレーシンポジウム
平成28年(2016)	多摩から江戸東京をつなぐ水循環の保全再生(第1回)
	玉川上水ネットプロジェクト未来遺産登録
	玉川上水・分水網と外堀・神田川・日本橋川との連携へ

図表 3-3 玉川上水ネットの
構成団体の特徴¹⁾

設立年代	活動区域	主な活動	名称	会員数
1974	小平市	水路保全	小平玉川上水を守る会	10
1989	立川市	自然保護	玉川上水の自然程を考える会	53
1992	三鷹市	自然保護	三鷹環境市民連	52
1993	三鷹市	歴史文化	井の頭の歴史を知る会	12
1994	西東京	自然保護	東京ほたる会議	30
2000	小平市	歴史文化	小平ユネスコ協会	40
2003	新宿区	自然保護	NPO法人新宿環境活動ネット	34
2004	福生市	水路保全	玉川上水遊歩道を考える会	47
2005	三鷹市	自然保護	井の頭バードリサーチ	80
2005	小平市	その他	玉川上水ストーリーテラーズ	10
2009	三鷹市	自然保護	久我山緑の散歩道	12
2009	杉並区	自然保護	玉川上水・杉並の会	9
2011	武蔵野市	歴史文化	武蔵野ユネスコ協会	35
2011	渋谷区	歴史文化	渋谷川・水と緑の会	10
2012	小平市	自然保護	緑のつながり市民会議	9
2013	小平市	歴史文化	学び舎江戸東京ユネスコクラブ	52
2013	小平市	自然保護	小さな虫や草やいきものを支える会	6
2013	東久留米市	その他	NPO中国健康法普及協会	2100
2014	武蔵野市	歴史文化	玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会	35
2015	東大和市	水路保全	玉川上水野火止用水ネットワーク・東大	5
2015	国分寺市	水路保全	ミズモリ団	17
2015	武蔵野市	自然保護	武蔵野の森を育てる会	48
2015	小平市	その他	小平井戸の会	100
合計				2806

(2) 玉川上水ネットの活動と新たな展開

玉川上水ネットは、玉川上水・分水路に係る日常的な自然観察、清掃活動等を行う団体の集まりであった。この地域に根ざした団体がネットワークを形成することにより、「玉川上水本線のリレーウォークとガイドブック作成」、各団体が分担して「分水路毎の紹介展示」を行い、情報の共有化を図る活動へと発展しつつある。その概要は次の通りである。

①玉川上水のリレーウォーク

玉川上水ネットは、設立直後の平成 23 年 7 月から、情報の共有化を目的に、玉川上水本線で活動する団体が地先の玉川上水を分担して案内する「玉川上水のリレーウォーク」を開催した。リレーウォークは、羽村堰から江戸城までを 12 区間に区分し歩き、最終回は「水都・江戸東京の三川巡り」と称し全 13 回のプログラムとした。最終回は平成 25 年 3 月の約 2 年弱をかけた活動であった。毎回 30～70 人の参加があり延参加者は 526 名に達した(図表 3-5 参照)。

一方、各回のガイドの内容は「玉川上水開削 360 記念 玉川上水リレーウォーク 羽村堰～江戸城(昭和 27 年玉川上水ネット)」としてまとめられており、ガイドの概要がわかる。

この冊子から、ガイドの内容を抽出すると、図表 3-4 の項目となる。ガイドの項目は水路の水利システムを中心に橋梁、周辺地域の関連項目など多岐にわたっている。

区分	項目	内容
上水路	水利施設	流水 流路 暗渠
		堰・床止横断構造物
		分水・補給・給水・放流口
		河川等の横断
	水衛所水車・河岸分水跡等	
橋梁		
文化財	国・都・市区指定 旧跡・碑・その他	
公園緑地	遊歩道/緑道 公園緑地(一体型)	
周辺地域	集落と水・道・農地	集落 分水 街道 農地 樹林
	文化財	関連史跡文化財 関連社寺
	都市施設	水利施設
		道路
		駅 鉄道
地形・景観	自然地形	
	水系	
	行事等	

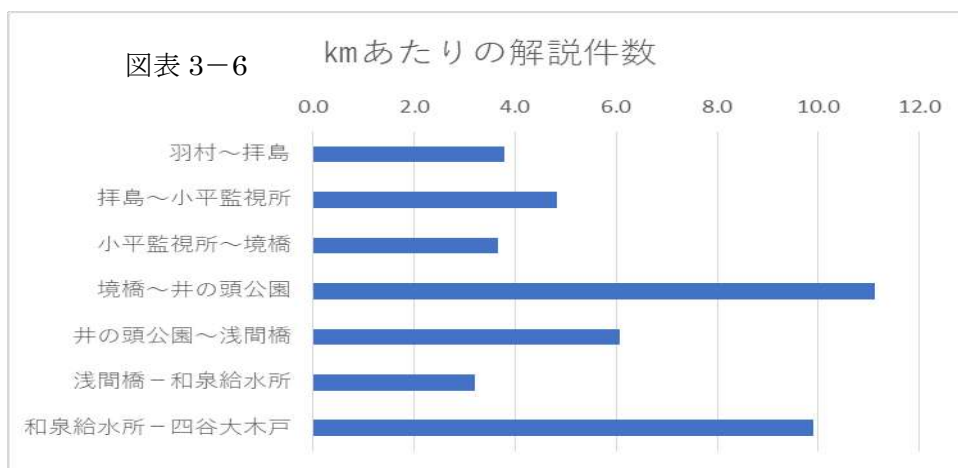
図表 3-4 解説の項目

	区間	実施日	参加者	担当団体	めあて
上流	羽村駅西口～拝島駅北口	2013年(平成25年)7月7日	31名	玉川上水遊歩道を考える会	玉川上水は、上水に沿って緑豊かな遊歩道が延びており、沿岸住民の安全な生活道路としての活用だけでなく、植物や動物の観察者、写真マニア、ウォーキング愛好者の来訪者も多く、まさに自然と共生の場として多くの人びとに愛されている。特に、福生市内の一部で約2kmにわたり途切れているため、福生市内は上記のような水と緑の帯がもたらす環境と警官の風趣に浴することがなく、また種々の目的で玉川上水を訪れる人が、玉川上水を愛し訪れる多くの人びとに多大な不便を与えているのが実情である。玉川上水を訪れる殆ど全ての人が上水沿い遊歩道の完全整備を望んでいることは、現在、本会、福生市と協働のかたちで福生市内上水沿い遊歩道欠落部分の完全整備運動に活動しているところである。
	拝島駅北口広場～玉川上水駅南口広場	2013年(平成25年)9月8日	49名	玉川上水の自然保護を考える会	1、5分水(拜島・野ヶ谷・柴崎・砂川・源五右衛門)が、それぞれ何の目的で、どこまで開削されたか。 2、玉川上水と残堀川との関わり。(現在は、交差している) 3、立川断層にぶつかかり、カーブして開削された。 4、金比羅山と玉川上水の関わり 5、ゲンジボタル自生地域
中流	玉川上水駅(清願院橋)～鷹の台駅(小平市中央公園)	2013年(平成25年)11月2日	72名	小平ユネスコ協会展覧会 ユネスコクラブ 玉川上水を守る会	①多摩川の水流がどこを流れているのかを確認。小平監視所見学 ②清流事業と上水小橋。こもれびの広場。 ③新田開発と屋敷割。武蔵野の景観と現状。 ④中央公園樹林地と道路問題 他
	小平市中央公園(鷹の台駅)～都立小金井公園(小金井橋)	2014年(平成26年)2月23日	52名	小平ユネスコ協会及びユネスコクラブ玉川上水を守る会	①ふれあい下水道館見学。下水道の現状を知る。下水道館にて、学芸員さんの解説を受ける。 ②旧小川水衛とこの課題。小金井橋の現状と今後の補植について。 ③野草育成ゾーンの管理と現状。 ④海岸寺と桜樹碑と行幸松。 ⑤小金井橋と“かしわや”について ⑥小金井公園とは？
	都立小金井公園(小金井橋)～玉川上水(関野橋)	2014年(平成26年)4月13日	39名	小金井公園桜守の会 藤正義他2名	玉川上水は江戸城や武家屋敷の用水として、また江戸市中の飲料水の水道施設として、わずか8ヶ月で羽村から四谷入木戸までの4.3キロの上水路を完成させた。特に玉川上水の桜並木は無窮の新田開発の時代に、小金井橋を中心とする上水両岸東西6kmに植えられ「無窮人景」に選ばれ、文人墨客をはじめ広重の錦絵に描かれ江戸近郊の桜の名所となる。また、玉川上水に沿う五日市街道は、江戸・東京を結ぶ幹線道路として地域の発展に寄与している。これらの歴史背景のなかで温故知新と今日的課題を検証する。

図表 3-5 玉川上水ネットのウォークの概要

	区間	実施日	参加者	担当団体	あえて
第6回	郡立井の頭恩賜公園	2014年(平成26年)5月11日	36名	井の頭ペーダリサーズ 日本自然保護協会自然観察指導員	・渡りの夏鳥 ・植物・昆虫観察 ・井の頭公園の歴史と史跡
第7回	小金井公園～三鷹駅	2015年(平成26年)6月15日	54名	三鷹環境市民連 武蔵野市有志	国木田進歩の森の保全見学 境上水道の見学
第8回 (その1)	三鷹駅～浅野橋	2015年(平成26年)9月15日	54名	三鷹環境市民連 武蔵野市有志	玉川上水の橋谷の景観を見せよう。
第8回 (その2)	牟礼橋～浅野橋	2015年(平成26年)9月15日	54名	三鷹環境市民連 武蔵野市有志	①浅間橋下流放射第5号線予定地の実情を理解してもらおう ②杉並地域の玉川上水に見られる野草や樹木の説明 ③玉川上水と三鷹・杉並地域の歴史的背景 ④鳥山分水を含めた様子
第9回	浅野橋～笹塚駅	2014年(平成26年)10月19日(日)	33名	世田谷環境学習会 五征司 自然観察の会・杉並山至京子	①ほとんどの部分が暗渠となっているが、その様子と歴史的背景。 ②玉川上水と明大京玉井の頭線の交差する部分の見学 ③杉並区部分の緑道の様子 ④泉水調整所等水道施設との関連 ⑤代田橋駅上流開渠部および笹塚駅上流開渠部の歴史的背景
第10回	笹塚駅～四谷大戸跡	2014年(平成26年)11月16日(日)	49名	NPO法人新宿環境活動 ネット 小山裕三	①暗渠となった玉川上水の現在を見て、江戸時代の玉川上水の流れを学ぶ。 ②暗渠の緑道としての姿を観察し、玉川上水の風の道を考える。玉川上水の水路と暗渠のつながりを考えたい。 ③玉川上水から生まれた三田用水へ源流、また、玉川上水の近くにある渋谷川の源流など江戸時代の川についても思いを馳せる。 ④水道が淀橋浄水場へ移った歴史を感じる。(水道道路、新宿新都心の高層ビル群、新宿中央公園など) ⑤玉川上水から神田上水への助水部の水路を知る。 ⑥京王線と玉川上水の水路との関係を知る。
第11回	江戸城と玉川上水	2014年(平成26年)12月23日(日)	55名	NPO法人新宿環境活動 ネット 小山裕三	①江戸城内の玉川上水の流れを知る。 ②江戸城内の玉川上水の使われ方を知る。(お濠、二の丸庭園) ③北村橋門と半蔵門前の懸樋を、明治時代初期写真と照らし合わせて、江戸城内の玉川上水を学ぶ。 ④江戸城の史跡見学(樹形門、櫓、天守台、庭園など) ⑤天皇誕生日の特別拝観により、江戸城内での玉川上水の最後の流れ、蓮池濠の石垣の上からの穴をしっかりと見学する。 ⑥江戸城の最初の水道としての千鳥が淵を見学する。
第12回	江戸市内の玉川上水 四谷大木戸～半蔵門	2015年(平成27年)2月15日	42名	NPO法人新宿環境活動 ネット 小山裕三	①玉川上水の利用を知る。(大名屋敷の庭園での利用・余水の活用・お濠での使用など) ②大木戸から江戸市中に入ってくる石樋、木樋の水路を探る。 ③玉川上水の工事の状況を横丁の名前から知る。(湯屋横丁、右御旗丁) ④木樋、石樋の形状とその使われ方を知る。 ⑤四谷見附橋の外濠を超える懸樋を知る。 ⑥中央橋の元、甲府鉄道と玉川上水の関係を知る。 ⑦濠に沿って赤坂に流れた玉川上水と江戸初期の水道「溜池」との関係を知る。

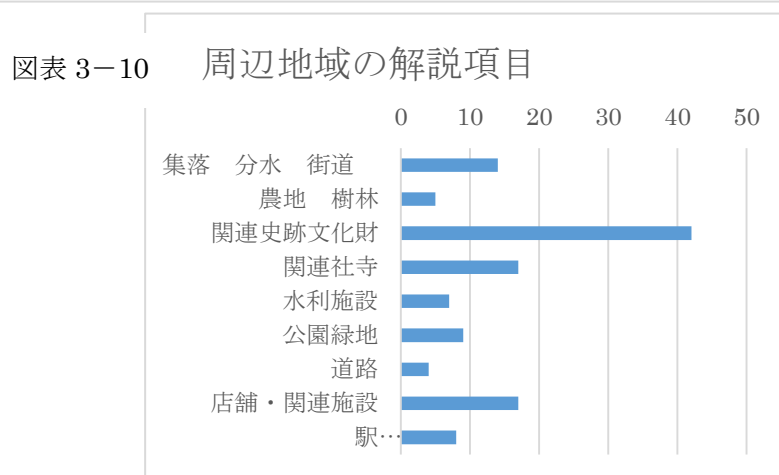
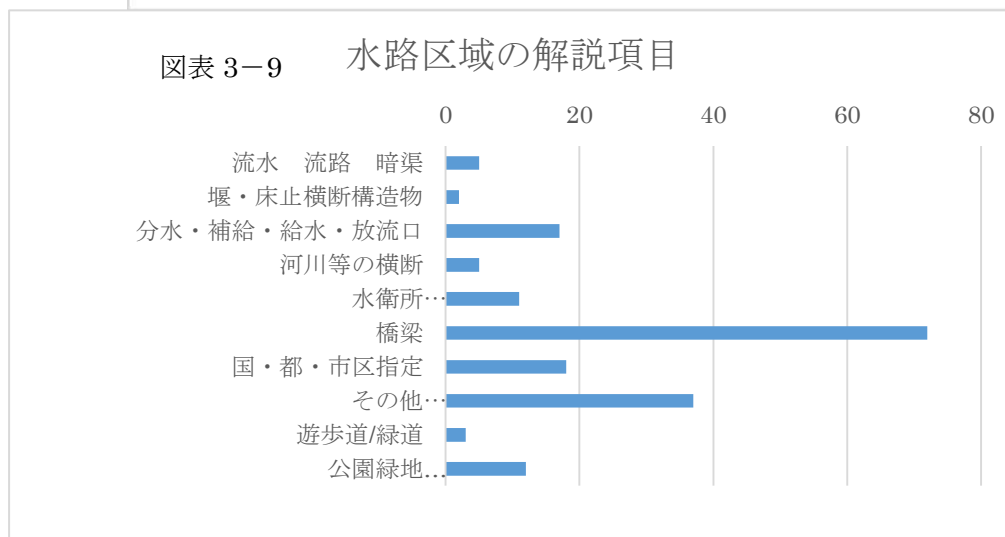
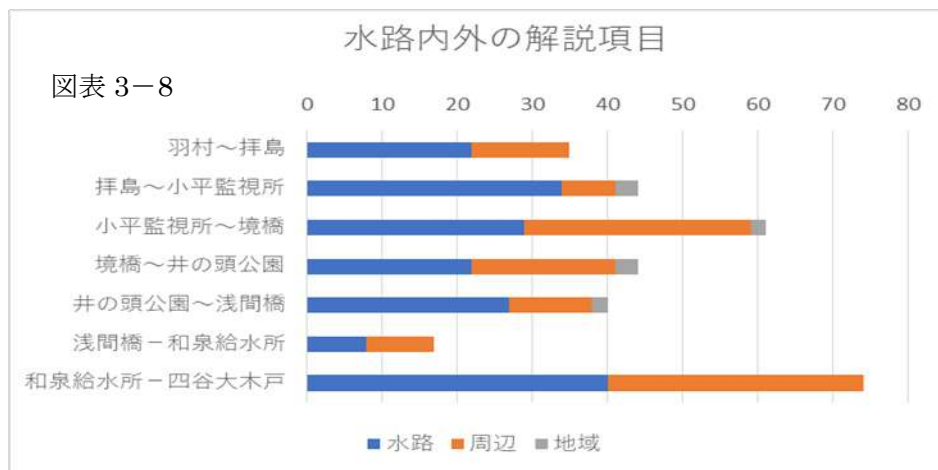
- さらに、ガイドの解説項目を区間ごとに整理すると図表 3-6~12 となる。 れる。この図表から区間別の解説項目の特徴を見ると、次のようなこと指摘できる。
- 区間の距離当たりの解説件数は、井の頭公園を含む境橋―井の頭の密度が最も高い。
 - 驚くべきことに、和泉給水所―四谷大木戸の暗渠区間が次いでいる。暗渠区間であるからこそ橋柱、欄干などの痕跡を丁寧に見つけ、解説している様子が伺え、玉川上水の注ぐ市民の熱い想いが感じられる。
 - 水路と周辺地域の解説については、水路のみならず地域の歴史文化資産にも多くの関心が示されている。
 - 水路暗渠区間の橋梁解説を含め、全体的に橋梁の解説が多い。
 - 歩きガイドという性格もあり地形・景観・自然さらに、行事や管理に関する解説が少ない傾向にあり、今後の課題として挙げることができる。



区間		距離	件数	kmあたり件数
1-1.	羽村～拝島	5.29	20	3.8
1-2.	拝島～小平監視所	7.26	35	4.8
	小計	12.55	55	4.4
II - 1.	小平監視所～境橋	10.64	39	3.7
II - 2	境橋～井の頭公園	3.24	36	11.1
II - 3.	井の頭公園～浅間橋	4.11	25	6.1
		17.99	100	5.6
III - 1	浅間橋～和泉給水所	5	16	3.2
III - 2	和泉給水所～四谷大木戸	7.17	71	9.9
	小計	12.17	87	7.1
	計	42.71	242	5.7

図表 3-7 区間毎の解説件数

なお、このリレーウォークのデータは現在、玉川上水ネットと協働でデジタル化作業を進めている。



区間	No.	項目	区間	No.	項目	区間	No.	項目
区間 I-1 羽村～拝島	1	羽村駅西口	区間 I-2 拝島 ～小平監視所	17	昔の残堀川跡	区間 II-1 小平監視所 ～境橋	18	喜平橋と舊屋橋
	2	中里介山の墓		18	源五右衛門分水口		19	海岸寺
	3	水神社		19	見影橋		20	海岸寺桜樹碑
	4	羽村陣屋跡		20	砂川田んぼ跡		21	行幸松と行幸松の碑
	5	羽村取水堰・第一水門		21	砂川分水の明渠部分		22	名勝小金井桜碑
	6	第3水門		22	江戸時代砂川村の名主宅		23	享保の新田開発と分水
	7	堂橋 (旧川崎橋)		23	水車 (通称たまぐるま) 跡		24	かしわや (鳥塚宅) と小金井橋
	8	羽村原水補給口		24	巴河岸跡		25	小金井街道 (志木街道)
	9	新堀橋 (旧神明橋)		25	立川断層		26	(国史跡 玉川上水)
	10	加美上水公園		26	邸田丹後アトリエ跡		27	(国名勝 小金井 (サクラ))
	11	旧堀跡		27	旧砂川水衛所跡		28	(玉川上水橋梁群)
	12	加美上水橋 (旧砂利線跡)		28	金毘羅山		29	御成松跡 (桜町3丁目地先)
	13	宮本橋		29	金毘羅橋		30	是政稲荷 (桜町3-5-21)
	14	福生分水口		30	宮の橋		31	郡立小笠井公園
	15	設楽分水口		31	清願院橋		32	陣屋跡
	16	清願院橋		32	西武拝島線玉川上水駅		33	松島家のサンシユユ
17	牛浜橋	33	多摩都市モノレール駅	34	八幡神社			
18	水喰土公園	34	清願院橋	35	関野町餅つき			
19	日光橋	35	清流復活と上水小橋	36	桜樹接種碑			
20	拝島駅	35	清流復活と上水小橋	37	尾州家鷹場御定杭			
区間 I-2 拝島 ～小平監視所	1	引き込み線鉄橋	区間 II-1 小平監視所 ～境橋	1	小平監視所	区間 II-2 境橋 ～井の頭公園	38	名勝小金井桜の碑
	2	平和橋		2	こもれびの足湯		39	浴恩館 (小金井市文化財センター)
	3	拝島分水口		3	新堀用水の胎内堀		40	旧千川上水分水口跡
	4	殿ヶ谷分水口		4	小川橋と石橋供養塔		41	境橋
	5	拝島源水補給口		5	東京都薬用植物園		1	玉川上水の碑
	6	こはけ橋		6	新田開発と屋敷割		2	境水御所跡
	7	西武拝島線		7	武蔵野の景観と大ケヤキ		3	千川上水清流分水
	8	昭和ゴルフ場北側暗渠		8	小嶋水車用水路跡		4	うど橋、碑
	9	柴崎分水口		9	小平市中央公園		5	境山野緑地 (独歩の森)
	10	砂川分水口		10	ふれあい下水道館		6	桜橋
	11	松中橋		11	津田塾大学		7	境浄水場
	12	天王橋		12	武蔵野線と地下水		8	千葉胤明の記念碑
	13	砂川水衛所跡		13	鎌倉橋と鎌倉街道		9	品川用水分水口跡
	14	新残堀川		14	旧小川水衛所と名勝小金井桜境界		10	大橋
	15	伏せ越し		15	一位の並木		11	3・2・6号線 (調布保谷線)
	16	旧残堀川 (江戸時代開削)		16	小平市平橋田中館		12	西久保公園
		17	野草保護育成ゾーン					

図表 3-11 リレーウォークの解説項目

区間	No.	項目	区間	No.	項目	区間	No.	項目
区間 II - 2 境橋 ～井の頭公園	13	野鳥の森公園	区間 II - 3 井の頭公園 ～浅間橋	11	東橋・東橋下流の桜	区間 III - 2 和泉給水所 ～四谷大木戸	6	和田堀給水所
	14	けやき橋		12	長兵衛橋 (現橋昭和 56年)		7	甲州街道大原 2丁目
	15	石造庚申供養塔		13	牟礼橋・どんどん橋 宝暦 7年 7)		8	ゆずり橋
	16	せせらぎ公園		14	石橋造立供養塔		9	玉川上水緑道 (世田谷区)
	17	世界連邦平和像		15	牟礼村と久我山村の境に大クマキがそびえている		10	向岸地藏尊
	18	国木田独歩の詩碑		16	久我山水衛所跡		11	環七
	19	三鷹橋		17	水難者慰霊碑		12	稲荷橋
	20	風の散歩道		18	放射5号線 (牟礼橋～環状8号線)		13	第2号橋・南ドン・ドン橋
	21	玉鹿石の碑		19	兵庫橋		14	笹塚駅
	22	むらさき橋 (昭和30年11月完成)		20	岩崎橋		15	玉川上水
区間 II - 2 境橋 ～井の頭公園	23	山本有三記念館(昭和11年～昭和21年在任)	21	岩通カーデン (岩崎通信機)	16	第三号橋		
	24	万助橋 (現橋昭和38年)	22	烏山分水口跡と北沢分水跡	17	朝日新聞 昭和49年4月22日		
	25	ジブリ美術館	23	散策の終点 浅間橋	18	笹塚		
	26	井の頭池	24	神田川放流口	19	笹塚橋		
	27	お茶の水湧水口	25	浴風会 (社会福祉法人浴風会)	20	三田上水 三田用水		
	28	御殿山	26	第六天神社	21	北沢橋 (摂津守橋)		
	29	弁財天	1	環状ハ号線・中の橋交差点	22	旧玉川上水ルート		
	30	井の頭池よりの給水口	2	高井戸堤碑	23	公園・緑道		
	31	寄進された灯籠(弁財天)	3	玉川上水の交遷碑	24	四条橋、五条橋、六条橋		
	32	野口雨情の碑	4	玉川上水第二公園	25	常磐橋		
区間 II - 3 井の頭公園 ～浅間橋	33	中田善直生誕90周年記念碑	5	宗源寺	26	相生橋		
	34	松本訓導殉難の碑 大正 9年	6	覚蔵寺	27	代々幡橋		
	35	ほたる橋	7	荒玉水道・荒玉水道道路	28	山下橋 美寿々橋		
	36	牟礼分水口跡	8	玉川上水第三公園	29	二字橋 (にあざはし)		
	37	七井橋	9	小菊橋	30	幡々谷		
	38	小祠	10	下高井戸線	31	西代々木橋 (勘右衛門橋)		
	1	幸橋	11	永泉寺緑地	32	新代々木橋・新代々幡橋		
	2	ナザレ修女会境内地 (田森の児童園)	12	築地本願寺和田堀廟所	33	代右衛門橋		
	3	新橋 (昭和 32年架設)	13	和泉弾薬庫跡	34	幡代橋		
	4	蛇行する玉川上水	14	明治大学和泉校舎	35	改正橋		
5	まつかけ橋	15	玉川上水と井の頭線との交差	36	初台			
区間 II - 3 井の頭公園 ～浅間橋	6	法政中高校裏樹林地	1	久左衛門橋	37	伊東小橋 伊藤橋		
	7	井の頭橋	2	井の頭街道碑	38	三字橋 (みあざはし)		
	8	三鷹市の最高地点標高65.1m	3	和泉水圧調整所	39	代々木橋		
	9	宮下橋	4	沖繩タウン/和泉明店街	40	銀世界の梅と「新宿パークタワー		
	10	神明社	5	新水路跡	41	玉川上水新水路		

区間	No.	項目
区間Ⅲ-2 和泉給水所 一四谷大木戸	40	淀橋浄水場
	41	新宿中央公園
	42	富士見台・六角堂
	43	写真工業発祥の地
	44	エコギヤラリー新宿
	45	十二社の滝（熊野の滝）
	46	十二社池
	47	十二社熊野神社
	48	正春寺
	49	正春寺橋・諦聴寺橋
	50	天神橋変電所
	51	天神橋跡
	52	籌銀杏（ほうきいちょう）
	53	勿来（なこそ）橋
	54	玉川上水のモニュメント
	55	新町駅跡
	56	原宿村分水
	57	千駄ヶ谷橋
	58	葵通り
	59	葵橋
60	新宿駅から四谷大木戸	
61	天龍寺	
62	天竜寺の「時と鐘」	
63	雷電稲荷神社	
64	新宿高校	
65	新宿御苑	
66	玉川上水・内藤新宿分水散歩道	
67	玉川上水余水吐き	
68	水道碑記	
69	四谷大木戸跡	
70	玉川上水水番所跡	

区間	区間距離 km	件数	上水路										周辺地域										総計									
			水利施設					その他					水利関係					周辺施設						取り巻く環境等								
			流水 流路 暗渠	堰・床 止横断 構造物	分水・ 補給・ 給水・ 放流口	河川等 の横断	水衛所 水車・ 河岸分 水跡等	小計	橋梁	国・市 都・市 区指定	その他 旧跡・ 碑	遊歩道 /緑道	公園緑 地 (一 体 型)	小計	集落 分水 街道	農地 樹林	関連史 跡文化 財	関連社 寺	水利施 設	小計	公園緑 地	道路		店舗・ 関連施 設	駅 鉄道	小計	地 形・ 景観	水系	行事	小計		
1-1. 羽村～拝島	5.3	20	0	2	6	0	0	8	6	3	4	0	1	14	22	1	0	7	1	0	9	2	0	2	4	13	0	0	0	35		
1-2. 拝島～小平監視所	7.3	35	3	0	3	4	5	15	12	2	5	0	0	19	34	0	0	1	0	0	1	0	0	2	4	6	7	3	0	3	44	
小計	12.6	55	3	2	9	4	5	23	18	5	9	0	1	33	56	1	0	8	1	0	10	2	0	6	10	20	3	0	3	79		
II-1. 小平監視所～境橋	10.6	39	1	0	2	0	2	5	6	7	10	1	0	24	29	4	2	11	3	2	22	3	0	5	0	8	30	1	0	1	2	61
II-2. 境橋～井の頭公園	3.2	36	0	0	3	0	2	5	9	1	5	1	1	17	22	0	0	13	0	1	14	2	1	2	0	5	19	3	0	3	44	
II-3. 井の頭公園～浅間橋	4.1	25	1	0	3	0	2	6	11	0	6	1	3	21	27	0	3	1	3	0	7	1	1	2	0	4	11	2	0	2	40	
小計	18.0	100	2	0	8	0	6	16	26	8	21	3	4	62	78	4	5	25	6	3	43	6	2	9	0	17	60	6	0	1	145	
III-1. 浅間橋～和泉給水所	5.0	16	0	0	0	1	0	1	2	0	2	0	3	7	8	1	0	1	4	1	7	0	0	2	0	2	9	0	0	0	17	
III-2. 和泉給水所～四谷大木戸	7.2	71	0	0	0	0	0	0	26	5	5	0	4	40	40	8	0	8	6	3	25	1	2	4	2	9	34	0	0	0	74	
小計	12.2	87	0	0	0	1	0	1	28	5	7	0	7	47	48	9	0	9	10	4	32	1	2	6	2	11	43	0	0	0	91	
計	42.7	242	5	2	17	5	11	40	72	18	37	3	12	142	182	14	5	42	17	7	85	9	4	17	8	38	123	9	0	1	315	

図表 3-12 区間別 解説項目

②玉川上水ネットによる分水網調査の展示

玉川上水ネットでは、玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会の第1回シンポジウムに参加し、事務局、関連5大学の展示に合わせて、分水網調査の展示を行った。分水網調査の展示は、図表3-13に示すように分水系統を8つのグループに区分するとともに、玉川上水全区間の自然を扱うグループを加えた9グループで分担した。各グループのテーマと担当した団体は図表3-14,15に示すとおりである。

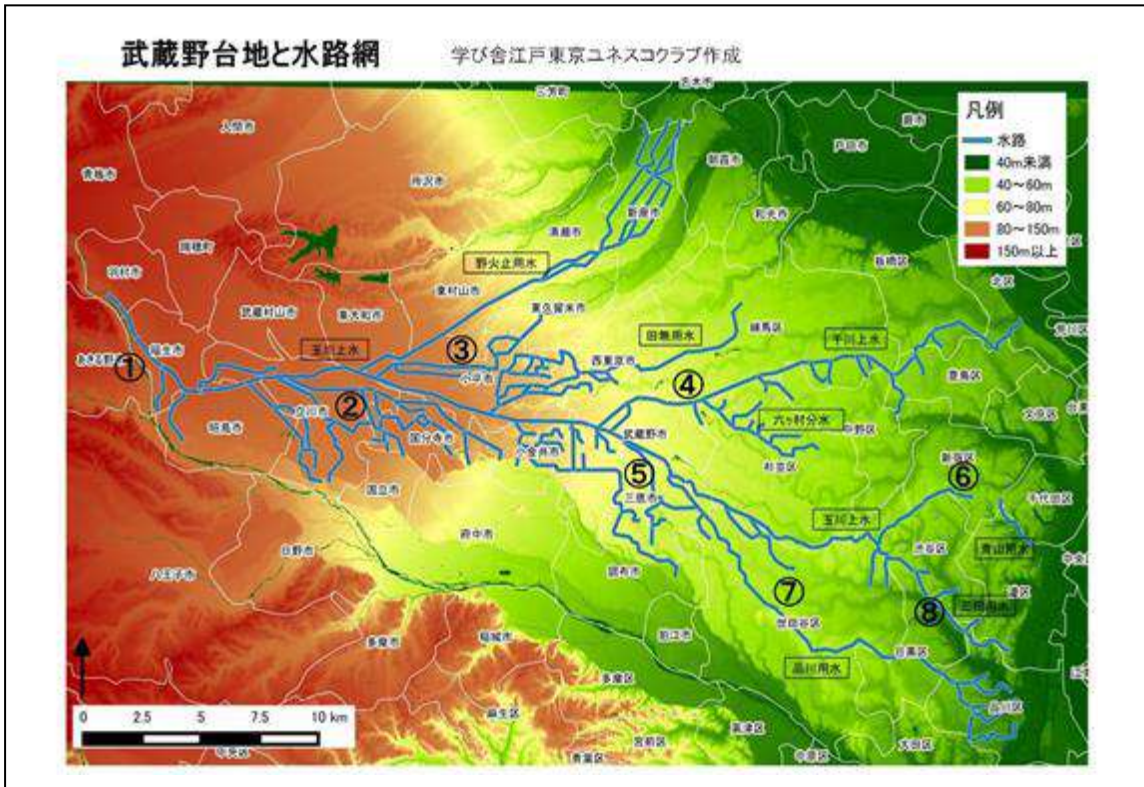
この展示の内容は、「展示と講演の記録 2016. 10.8~10.10」(玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会)としてまとめられているので参照願いたい。

この市民の手による玉川上水リレーウォークの縦軸のデータ、地域史に密着した分水網のデータにより、身近な玉川上水の全体像を描くことが可能になると考えており、引き続きデータの整理、共有化の方法を探りたい。

上水記	右岸	左岸	上水記
	羽村取水堰		
	福生分水		
	熊川分水		
拝島村分水	拝島分水		
		上流 通水 区間	殿ヶ谷分水
			殿ヶ谷新田分水
紫崎村分水	立川分水		
	砂川分水		
	源右衛門分水		
平兵衛新田分水			野火留用水
中森新田分水			野火留用水
南野中新田分水			小平分水
鈴木新田分水			小川村分水
国分寺村分水	国分寺分水		野中村新田
下小金井分水			田無村分水
下小金井新田分水			鈴木新田分水
梶野新田分水			関野新田分水
境新田分水			千川分水
品川用水	品川分水		千川上水
無礼村分水	牟礼分水		
烏山村分水	烏山分水		高井戸分水
上北沢分水	北沢分水		高井戸村分水
三田用水	三田分水		権ヶ谷分水
原宿村分水			権ヶ谷村分水
戸田幡守池原敷分水			
内藤大和守原敷分水			
	渡谷川		
	外堀・内堀・神田川・日本橋川		
		下流 暗渠 区間	
			淀橋水車

図表 3-13
分水系統のグルーピング

- ①今も残る集落のかたち～田村分水・熊川分水～（玉川上水遊歩道を考える会）
- ②武蔵野台地の先駆者～砂川用水・柴崎分水～（玉川上水の自然保護を考える会）
- ③小平用水路網50kmは生きている（学び舎江戸東京ユネスコクラブ、小平ユネスコ協会、ちいさな虫や草やいきものたちを支える会）
- ④市民がつくる水と緑のネットワーク～千川と仙川～（玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会、武蔵野ユネスコ協会、武蔵野の森を育てる会）
- ⑤武蔵野台地に息を吹き込んだ砂川・品川・牟礼分水（三鷹環境市民連、井の頭の歴史を知る会）
- ⑥玉川上水の歴史と新宿（NPO法人新宿環境活動ネット）
- ⑦品川用水に残る「面影」と出会うマップ（品川用水復活研究会）
江戸の知恵「玉川上水網」保存・整備・再生支援（東京世田谷南ロータリークラブ）
- ⑧三田上水と三田用水（渋谷川・水と緑の会）
- ⑨玉川上水・いきものたちの通り道（ちいさな虫や草やいきものたちを支える会）



図表 3-14 分水系統毎の市民グループの展示タイトル

第4章 今後の課題について

—市民・研究者・行政が連携した玉川上水・分水網の再評価へ—

かつて江戸幕府が造り上げた玉川上水・分水網の広大な地域にわたる水利システムは、地域に限定した自治体単位での住民活動だけでは、歴史・文化と自然を含む広範な視点から玉川上水・分水網の全体像をとらえることが困難等の課題が浮かび上がってきた。

こうしたことから、平成25年には、研究者、専門家などが集まり「玉川上水・分水網を世界遺産・未来遺産へ準備会（代表を千葉大名誉教授 田畑貞寿）を組織（登録会員約250名）し、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を目的に調査研究を推進し、玉川ネットと連携し玉川上水・分水網の保全再生をめざす活動に取り組み始めた。こうしたことも評価され、玉川上水ネットは平成28年度に日本ユネスコ協会のプロジェクト未来遺産に登録された。

この研究の過程で玉川上水・分水網は、羽村堰から・四谷大木戸までの開水路の区間だけでなく、下流側の外堀、神田川・日本橋川との連携や、野火止用水を介した新河岸川舟運との連携、あるいは地下水を介した武蔵野崖線の湧水とも連携した、壮大な水利システムであること。また、開水路をより安定的に維持するためには、都市生活と密着した快適で安心安全な水利システムの再構築が不可欠であることも見えてきた。

こうしたことから、現在では、外堀・神田川・日本橋川の浄化や水循環の調査研究に取り組んでいる「水循環都市東京シンポジウム実行委員会（総括実行委員長山田正 中央大学教授）」および、日本橋再生水辺再生研究会ともネットワークを形成。東京オリンピック・パラリンピックを契機として多摩川の河川水を玉川上水・分水網に導水し、東京水循環の再生をめざす大きなうねりが形成されつつある。

このためには、特に次の点に留意することが必要と考えられる。

- 玉川上水・分水網は、単に江戸・東京の基幹的な上水道システムだけでなく、分水網、下流への余剰水放流などを通じて江戸・東京という大都市のお濠、中小河川・地下水等の基層的な水循環の形成の重層構造として再評価すること。後者は、将来の安定した東京の都市形成にとっては特に重要な課題となる。

- 一方、今回の調査研究からも明らかなように、玉川上水・分水網のありようは、水道の水利システムと連動しており、水利の目的が明確でない限り、適切な水路管理は難しいといえる。この点、水循環の側面に着目しながらも、下流のお濠、日本橋川への維持用水あるいは、緊急時の生活・消防水利の確保など多面的な水利と安定的な流量確保を検討し、水路の安定的な維持管理との調和を図るべきと考えられる。

- 市民の玉川上水・分水網への関心は、水道システムの役割が小さくなるにつれ、玉川上水ネットの活動を見るまでもなく、現象的には逆に関心が高くなる傾向にある。また、身近な緑の環境、生態系への配慮も不可避と考えられる。こうした意識の変化も踏まえ玉川上水・分水網の保全再生を検討することが必要となる。
- こうした都市の水循環、身近な水と緑の保全再生のためには、既存の行政的枠組みを超えた、市民・研究者・行政の新しい維持管理、利活用システムを模索すべきと考える。

参考文献

第1章

- 東京都水道局 淀橋浄水場史 東京都水道局 昭和41年
- 日本河川開発調査会 多摩川の水利開発史と水利調整に関する研究 とうきゅう環境財団 昭和59年
- 鈴木理生編著 江戸・東京の川と水辺の事典 柏書房 2003年5月
- 中里崇亮 玉川上水・分水と武蔵野の集落・農地 玉川上水・分水網を世界遺産・未来遺産へ第1回シンポジウムの記録 玉川上水・分水網を世界遺産・未来遺産へ準備会 2015
- 北原糸子 江戸城外堀物語 ちくま新書 1999
- 玉川上水域研究会 玉川上水・分水網と関連遺構に関する調査報告書 とうきゅう環境財団 2016
- 東京都教育委員会 玉川上水文化財調査報告—その歴史と現況— 東京都教育庁生涯学習部文化課 1986
- 土木史研究会 土木文化財としての玉川上水 土木学会平成9年度全国大会官給討論会19資料 1997
- 吉江勝弘 土木技術と文化財保護の視点から見た玉川上水再考—特に福生市域を対象として— とうきゅう環境財団 2012
- 小坂克信 玉川上水の分水の沿革と概要 とうきゅう環境財団 2014
- 東京都水道局 東京都水道史 昭和27年10月
- 芳賀善次郎 新宿の散歩道 三交社 昭和47年10月
- 環境省皇居外苑管理事務所 平成20年度皇居外苑濠管理方針検討会水質改善対策分科会(第2回資料)
- 東京都水道局 史跡玉川上水保存管理計画書 平成19年3月

第2章

本文図表2-2(P16)に掲載

第3章

- 玉川上水ネット 平成29年度玉川上水ネット総会資料
- 玉川上水ネット 玉川上水開削360年記念玉川上水リレーウォークの記録 2015.12
- 玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会 多摩から江戸・東京をつなぐ水循環の保全再生 第1回シンポジウムの記録 2016.10.8~10

資 料 編

01. 多摩から江戸・東京をつなぐ水循環保全再生

02. 地誌・教科書等に見る玉川上水・分水網

01. 多摩から江戸・東京をつなぐ水循環の保全再生

資料 -01 多摩から江戸・東京をつなぐ水循環の保全・再生

～玉川上水への河川水通水による外濠・日本橋川の水質浄化を契機として～

玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会事務局

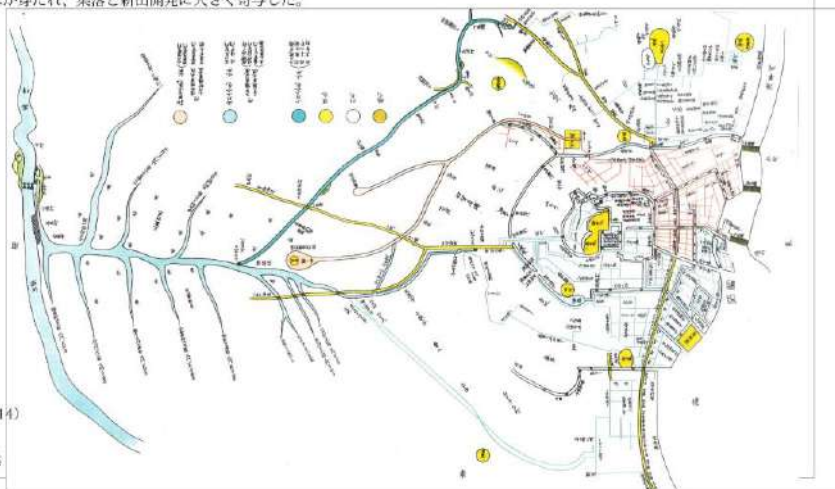
(水循環都市東京シンポジウム実行委員会・玉川上水・分水網の保全再生連絡会・玉川上水ネット・日本橋水辺再生研究会)

1. 江戸・東京の水の大動脈 玉川上水・分水網

玉川上水は、承応3年(1630)に多摩川の羽村堰～四谷大木戸まで約43kmを開削し、江戸市中に配水した水道の大動脈である。その配水エリアは隅田川沿岸に達していた。

また、開削から161年後の寛政3年(1791)には武蔵野台には33の分水が穿たれ、集落と新田開発に大きく寄与した。

分水は、南の多摩川の崖線と北の新河岸川・荒川まで達していた。またその落水は、武蔵野台地を開削する中小の河川の流頭へ流れ込み、沿岸の田畑を潤した。さらに、その浸透水は崖線の湧水を涵養した。この意味で玉川上水と分水網は、まさに江戸・東京の水循環の基軸でもあった。



正徳年間(1711～1714)
末頃の上水図
(千代田区立歴史博物館・東京市史館
上水編第1巻より転載)

2. 昭和40年（1965）水道システムの变革と玉川上水・分水網

昭和40年（1965）に淀橋浄水場が廃止されるなど、東京の水道システムは大きく変貌する。これに伴い、玉川上水の小平監視所下流への通水は停止され、分水網も急速に衰退する。

このような状況から、沿岸地域では水路維持のための用水の要望が高まり、昭和60年（1985）には中流部開渠区間への下水道高度処理水の導水が始まる。下流の暗渠区間には水が流れないままの状況で今日に至っている。

年号	主な出来事
昭和40年(1965)	淀橋浄水場廃止（新井-小平監視所まで通水）
昭和41年(1966)	東京都下水道局（旧上野区）の成立
昭和44年(1969)	野火止用水清流復活事業
昭和49年(1974)	野火止用水清流復活事業
昭和50年(1975)	野火止用水清流復活事業
昭和51年(1976)	野火止用水清流復活事業
昭和52年(1977)	野火止用水清流復活事業
昭和53年(1978)	野火止用水清流復活事業
昭和54年(1979)	野火止用水清流復活事業
昭和55年(1980)	野火止用水清流復活事業
昭和56年(1981)	野火止用水清流復活事業
昭和57年(1982)	野火止用水清流復活事業
昭和58年(1983)	野火止用水清流復活事業
昭和59年(1984)	野火止用水清流復活事業
昭和60年(1985)	野火止用水清流復活事業
昭和61年(1986)	野火止用水清流復活事業
昭和62年(1987)	野火止用水清流復活事業
昭和63年(1988)	野火止用水清流復活事業
昭和64年(1989)	野火止用水清流復活事業
昭和65年(1990)	野火止用水清流復活事業
昭和66年(1991)	野火止用水清流復活事業
昭和67年(1992)	野火止用水清流復活事業
昭和68年(1993)	野火止用水清流復活事業
昭和69年(1994)	野火止用水清流復活事業
昭和70年(1995)	野火止用水清流復活事業
昭和71年(1996)	野火止用水清流復活事業
昭和72年(1997)	野火止用水清流復活事業
昭和73年(1998)	野火止用水清流復活事業
昭和74年(1999)	野火止用水清流復活事業
昭和75年(2000)	野火止用水清流復活事業
昭和76年(2001)	野火止用水清流復活事業
昭和77年(2002)	野火止用水清流復活事業
昭和78年(2003)	野火止用水清流復活事業
昭和79年(2004)	野火止用水清流復活事業
昭和80年(2005)	野火止用水清流復活事業
昭和81年(2006)	野火止用水清流復活事業
昭和82年(2007)	野火止用水清流復活事業
昭和83年(2008)	野火止用水清流復活事業
昭和84年(2009)	野火止用水清流復活事業
昭和85年(2010)	野火止用水清流復活事業
昭和86年(2011)	野火止用水清流復活事業
昭和87年(2012)	野火止用水清流復活事業
昭和88年(2013)	野火止用水清流復活事業
昭和89年(2014)	野火止用水清流復活事業
昭和90年(2015)	野火止用水清流復活事業
昭和91年(2016)	野火止用水清流復活事業
昭和92年(2017)	野火止用水清流復活事業
昭和93年(2018)	野火止用水清流復活事業
昭和94年(2019)	野火止用水清流復活事業
昭和95年(2020)	野火止用水清流復活事業
昭和96年(2021)	野火止用水清流復活事業
昭和97年(2022)	野火止用水清流復活事業
昭和98年(2023)	野火止用水清流復活事業
昭和99年(2024)	野火止用水清流復活事業
令和元年(2019)	野火止用水清流復活事業
令和2年(2020)	野火止用水清流復活事業
令和3年(2021)	野火止用水清流復活事業
令和4年(2022)	野火止用水清流復活事業
令和5年(2023)	野火止用水清流復活事業
令和6年(2024)	野火止用水清流復活事業



昭和40年以降の玉川上水・分水網保全 玉川上水・分水網の水利システム概況図

3. 玉川上水の区間ごとの環境整備課題

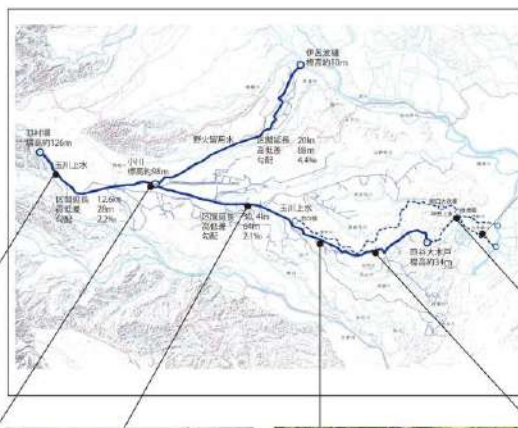
現在、玉川上水にどのような水が流れているか、あるいは流れていないか、暗渠化されたなど、区間ごとに水利条件は異なり、水利、水路と周辺の維持管理の方法も異なっているこのため、玉川上水・分水網の保全再生への課題を一層複雑にしている。



羽村橋～小平監視所間：水道原水が滔々と流れる区間。水道局管理



小平監視所～杉並区浅原橋間：下水道水高度処理水が流れる。水利は環境局、水路は水道局。



周辺の緑道・遊歩道は地先の状況に応じ自治体が管理。ここでは国指定小金井堤の復元が進む。



井の頭公園下流部水路：流路も少なくなり、水路適正の崩落、樹木の繁茂が進む。



日本橋川・上流からの汚濁水、下流からの濁等によって汚物の滞留も



外堀：玉川上水からの輸送水が途絶えたこと等により、アオコの発生も



浅原橋下流の暗渠区間：水路の暗渠化により上流は公園・道筋等の利用が進む。

4. 外濠・神田川・日本橋川の水質汚濁と都市環境

東京都心部に位置している「日本橋川」「神田川」の溶存酸素飽和度は非常に低く、生物が生存できないほど水質は深刻な状況にある。一方、外濠の現在の水量は全体で約 20 万 m³に過ぎず、補給水が少ないために災害時等の消防水利も短時間で枯渇すると見られている。

こうした水質改善あるいは、緊急時の水利確保の一つの手段として、かつて外濠まで通じていた玉川上水からのルートを活かすことが期待される。

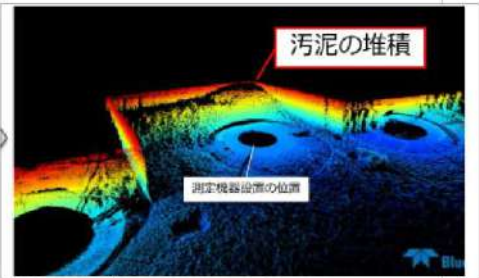


現在の都心部の水系と玉川上水からの導水ルート

	市ヶ谷端	新見町端	牛込端
延長(m)	224	470	632
水深(m)	3.24	3.38	3.78
平均水深(m)	1.5	1.1	1.0
全面積(m ²)	14,000	20,000	26,000
容積(m ³)	51,840	84,500	64,080

外濠の諸元

注) 平均水深は観測値から算出した値



外濠西部の堆積状況(下水道汚泥・2014年11月)



東京都の溶存酸素飽和度の空間分布(2008年)

4

5. 日本橋川の水辺を活かしたまちづくりの胎動

日本橋川沿岸の地域では、日本橋川再生と首都高の地下化をはじめとする地域課題を解決するために、平成 18 年(2006)に日本橋再生推進協議会を設立し、さらには、翌年には協議会内に水辺再生研究会を立ち上げ、川の清掃、水質浄化や水辺を活かしたまちづくりへの提言などに積極的に取り組んできた。この結果、この 7 月には「日本橋周辺のまちづくりと連携し首都高速道路の地下化に取り組みます。」という国、東京都の共同声明が出された。こうした動きにあわせ、玉川上水と連動した水利・水質改善への期待も高まりつつある。



①～③) 日本橋地域における水辺空間を活かしたまちづくりに向けた取り組み
平成 20 年 12 月 水辺再生研究会
②) 日本橋周辺まちづくりと連携して首都高速道路の地下化に向けて取り組みます。
記者発表資料
平成 29 年 7 月 21 日



④) 国土交通省・東京都 平成 29 年 7 月 21 日 同時発表資料



6. 東京オリンピック・パラリンピックを契機とした玉川上水・分水網の保全・再生

第1回シンポジウムにおける四つの提言

一、都民をはじめ多くの人々に、玉川上水・分水網や外濠・日本橋川が有する自然・歴史文化や環境、防災面の価値を知ってもらうため、情報の発掘、共有化に取り組ましましょう。

玉川上水ネットの未来遺産登録、日本橋の水辺再生研究会等との広域的な連携強化

検討・調整事項

分水・自治体毎の活動調査研究
情報交換

課題

二、東京都および関係する学・官・民からなる研究会を設置し、玉川上水を軸とした水循環システムの再生と水と共生する文化の再構築を図りましょう。

第2回シンポジウムのメインテーマ

上流から下流までの学・官・民の協働による推進体制
(玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会)

国・都・市区との連携方策
(研究会の検討)

三、オリンピック・パラリンピック東京大会開催に向けて、玉川上水へ河川水を試験的に通水、外濠・日本橋川等へ注水することにより水質改善を促すとともにその効果、影響を確かめながら、長期的に水循環システムの再編に取り組ましましょう。

東京オリンピックを契機とした玉川上水の試験通水外濠・日本橋川等の水質浄化
玉川上水への試験通水を通じた水循環の再評価

水質改善
水循環機構再生可能性
快適で安全安心な都市環境形成への寄与
安定した水利・水辺環境維持管理の検討

四、美しい水路や濠・川等の復活・再生を促すとともに、玉川上水・分水網などを、都・市区と連携し、まず日本遺産へ、さらに世界遺産への登録をめざしましょう。

日本遺産・世界遺産の可能性の検討

自治体への登録要請とネットワーク化の検討

6

7. 玉川上水から外濠・日本橋川へ河川水を試験通水する実験（案）

1. 試験通水量の目途

- 玉川上水試験通水量 1.0 ～ 2.0 m³/s
- 外濠注水量 0.2 ～ 0.7m³/s

2. 水源の考え方

- 多摩川河川水（下水高度処理水0.3m³/s考慮）
なお、導水する多摩川河川水は、荒川から隅田川へ注水している環境用水の振替など、多面的に検討し手当する。

3. 試験通水の予定

2017年：試験通水の準備調整

- ・東京都の判断
- ・実験調査項目と実験、検証システムの立ち上げ
- ・玉川上水の流下ルート精査
- ・関係行政機関との調整

1回目試験通水 2018年7・8月

- ・玉川上水の流下状況（特に京王新線区間の状況把握）
- ・玉川上水の沿川水質状況
- ・高度処理水（環境用水）を注水している池等の水質変化
- ・要改良点の洗い出し
(樹木繁茂状況、漏水状況、下水道幹線区画状況)
- ・外濠における水循環サイクルの変化と水質、臭気の変化
- ・日本橋川における水質、臭気の変化
- ・隅田川沿川における水質変化 など

2回目試験通水 2019年7・8月

- ・実験結果を見て改善・試行

3回目試験通水 2020年7～9月

- ・オリンピック・パラリンピック期間の試行・水質改善

- ・オリンピック7月24日～8月9日
- ・パラリンピック8月25日～9月6日

- ・実験の総括、将来に向けての調整課題検討

7

02、地誌・教科書等に見る玉川上水・分水網

【抽出した文献リスト】

区分	No.	著者・编者	名称	発行	発行年代	
絵図	1	斎藤幸雄・幸孝・幸成	江戸名所図会第4巻 天璣之部		天保7	1836
地誌	2	大町 桂月	東京遊行記	大倉書店	明治39年	1906
教科書	3	山本三生	日本地理大系第3巻 大東京編	改造社	昭和5年	1925
写真集	4	伊藤 照久	日本地理風俗大系 第2巻	新光社	昭和6年	1931
	5	岩波書店編集部	岩波写真文庫201東京	岩波書店	昭和31年	1956
	6	下中弥三郎	世界文化地理大系第3巻日本Ⅱ 関東	平凡社	昭和32年	1957
	7	東京都教育委員会	都内見学	東京都教育委員会	昭和33年	1958
	8	小学館	図説日本文化地理大系第2巻関東1 総説東京	小学館	昭和38年	1963
	9	木内 信蔵	日本の文化地理 第6巻 東京	講談社	昭和43年	1968
	10	多摩中央信用金庫	多摩の歩みとともに	多摩中央信用金庫	昭和49年	1961
	11	旺文社	図説学習日本の地理6 関東地方	旺文社	昭和52年	1977
	12	東京都社会科教育研究会	わたしたちと東京	明治図書出版	昭和55年	1980
	13	秋谷豊	残照の武蔵野	桐原書店	昭和56年	1981
	14	波多野 公介	朝日旅の百科 東京の旅③武蔵野	朝日新聞社	昭和56年	1981
	15	波多野 公介	朝日旅の百科 東京の旅④	朝日新聞社	昭和56年	1981
	19	波多野 公介	朝日旅の百科 東京の旅①	朝日新聞社	昭和55年	1980
	16	宮沢 守 他	カメラ風土記東京Ⅱ	保育社	昭和56年	1981
歴史	17	写真集多摩川は語る編集委員会	写真集 多摩川は語る	東京立川ライオンズクラブ	昭和60年	1985
	18	多摩百年史研究会	写真集・眼で見る多摩の一世紀	(財) 東京市町村自治連	平成5年	1993
	20	東京都水道局	淀橋浄水場史		昭和41年	1966

江戸名所図会第4巻 天璣之部

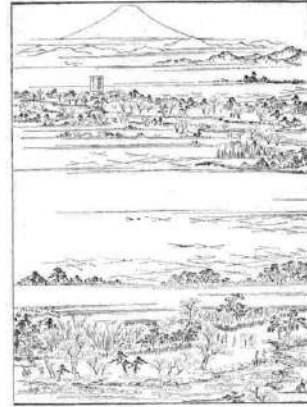
斎藤幸雄 幸孝 幸成 (月吟)

天保7年(1836)

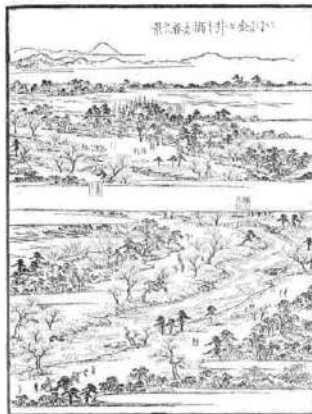
No.1



①井の頭池弁財天社



②小金井橋春景_1



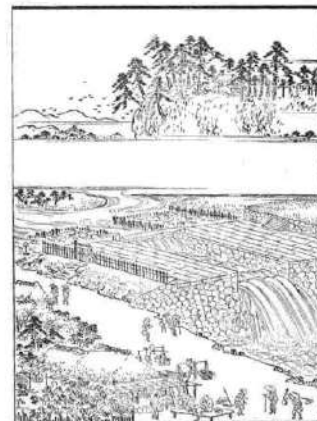
②小金井橋春景_2



③小金井橋春景_1



③小金井橋春景_2



④目白下大洗堰_1

江戸名所図会第4巻 天璣之部

斎藤幸雄 幸孝 幸成 (月吟)

天保7年(1836)

No.1



④目白下大洗堰_2



⑤宗岡の宿 内川_1



⑤宗岡の宿 内川_2



⑥野火留

東京遊行記

大町桂月

明治 39 年 (1906)

No.2



①小金井の桜



②井の頭池



①玉川庄右衛門と清右衛門



②羽村取り入口



③堰入口下流



④往時の排水管



⑤江戸時代の水道



⑥玉川上水路(小金井橋上流)



⑦井の頭公園



⑧井の頭の池(広重)



⑨小金井桜



⑩金井橋満花(江戸名所花暦)



⑪水源多摩川上流



⑫淀橋浄水場_1



⑫淀橋浄水場_2



⑬村山貯水池



⑭境浄水場水路



⑮境浄水場



⑭村山貯水池取水塔



①善福寺の池



②玉川上水(境浄水場付近)



③近郊農村景(善福寺池下流)



④淀橋給水所



⑤井の頭の池



⑥桜の名所小金井

岩波写真文庫 201 東京

岩波書店編集部

昭和 31 年 (1956)

No.5



①ねりま大根



②空から見た武蔵の名残

世界文化地理大系第3巻日本Ⅱ関東

下中弥三郎

昭和32年(1957)

No.6



①関東の農業・大根洗い



②台地の開拓・野火止用水



③妙正寺川



④武蔵野の街道



⑤三鷹市付近・道祖神と分水



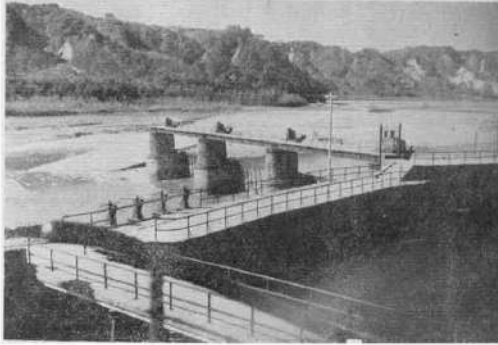
⑥小金井堤

都内見学

東京都教育委員会

昭和 33 年 (1958)

No.7



①羽村取水場

図説日本文化地理大系第2巻関東1総説東京

小学館 昭和38年(1963)

No.8

191 練馬ダイコン 江戸
 新田として成長するに
 ついで、明治御時野
 田の供給地として、先
 業は著しい功績を
 上げてきた。農民は
 江戸の町に運ぶ。田
 田の後の青物市場で
 売りを競う。しかも
 下肥を必要とするた
 め、下肥を採取する
 ためとして、マイ
 マン・マイ・マイと
 呼んでいわれる。練
 馬のダイコンは石
 神楽の産物として
 有名で、昭和10
 (1935)ごろには
 知られてきたが、
 現在はその産地は
 ほとんど消滅して
 いる。



191 練馬ダイコン 東京 練馬区

①練馬ダイコン



②玉川上水



③青梅街道



⑤武蔵野の湧水と部落



④井の頭公園



⑥武蔵野新田



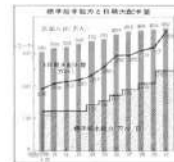
①武蔵野の街村(五日市街道・小平)



②江戸上水道・水路および給水区



③加藤兄弟の像



③-1 水需給, 利根川拡張事業



④新宿副都心の建設



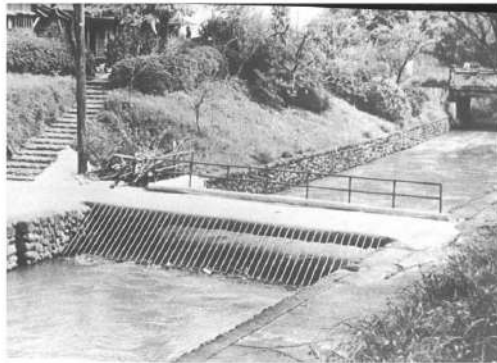
⑤玉川上水(立川)

多摩の歩みとともに

多摩中央信用金庫

昭和49年(1974)

No.10



①玉川上水揚場 砂川三番

図説学習日日本の地理6 関東地方

旺文社

昭和52年(1977)

No.11



53. 羽村取水堰 54. 砂川新田 55. 武蔵野台地の新田開発

①羽村取水堰



②砂川新田



③武蔵野台地の新田開発

わたしたちと東京

東京都社会科教育研究会

昭和 55 年 (1980)

No.12



①昭和 33 年頃の新宿西口のようす



②現在の新宿副都心のようす



③玉川上水の取り入れ口



④昔の玉川上水 (小金井付近)



⑤小金井付近の玉川上水



⑥木のといや石のようす

わたしたちと東京

東京都社会科教育研究会

昭和 55 年 (1980)

No.12



⑦ 四谷水番所の跡



⑧ 井の頭の池



⑨ 神田川流出口



⑩ まいまいず井戸



⑪ 玉川上水の記念碑



⑫ 今も流れる分水 (小川分水)

残照の武蔵野

秋谷豊

昭和 56 年 (1981)

No.13



①はけの道



②はけの道



③大宰よ一玉川上水

朝日旅の百科 東京の旅③武蔵野

波多野公介 昭和56年(1981)

No.14



①ルートマップ①井の頭公園と周辺



②玉川上水の新橋付近



③七井の橋から弁財天堂が美しい



④ルートマップ②小金井堤と小金井公園



⑤さくら折るべからずの碑



⑥境浄水場

朝日旅の百科 東京の旅③武蔵野

波多野公介

昭和 56 年 (1981)

No.14



⑦小金井公園



⑧ルートマップ⑬久米川から東久留米



⑨野火止用水の水



⑩万年橋のケヤキ



⑪ルートマップ⑳玉川上水沿いに砂川へ



⑫落ち葉を浮かす晩秋の玉川上水

朝日旅の百科 東京の旅③武蔵野

波多野公介

昭和56年(1981)

No.14



⑬雑木林の中を行く玉川上水沿いの遊歩道



⑭その昔は船着場であった巴河岸跡



⑮残堀川旧水路



⑯砂川分水・柴崎両分水取入口



⑰玉川上水 見影橋(巴河岸跡)



⑱金毘羅橋付近の遊歩道

朝日旅の百科 東京の旅③武蔵野

波多野公介

昭和 56 年 (1981)

No.14



⑭国立市の南段丘のハけ



⑮春爛漫の季節 井の頭公園

朝日旅の百科 東京の旅④

波多野公介

昭和 56 年 (1981)

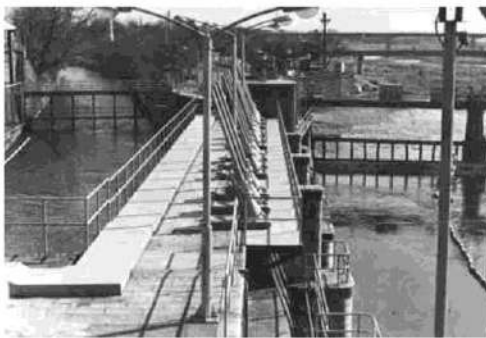
No.15



①ルートマップ⑤玉川上水を羽村へ



②玉川兄弟の銅像



③多摩川の水は羽村堰でせき止め玉川上水へ



④露天掘りのまいまいず井戸



⑤水神社脇に残る陣屋門



⑥酒造場の煉瓦の煙突

朝日旅の百科 東京の旅①

波多野公介

昭和 55 年 (1990)

No.19



①新宿周辺マップ



②杉並周辺マップ



③玉川上水沿いの児童公園

カメラ風土記東京Ⅱ

宮沢守 他 昭和56年(1981)

No.16



①井の頭公園



②小金井公園

カメラ風土記東京Ⅱ

宮沢守 他 昭和 56 年 (1981)

No.16



①井の頭公園



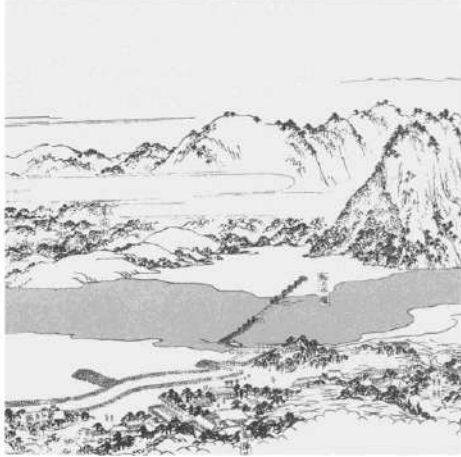
②小金井公園

写真集 多摩川は語る

写真集多摩川は語る編集委員会

昭和60年(1985)

No.17



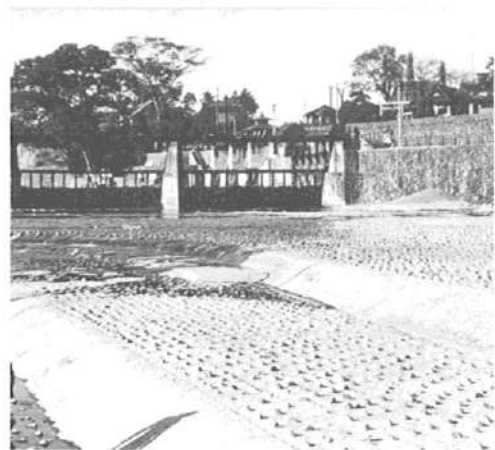
①江戸時代の羽村堰



②羽村の堰と陣屋



③羽村堰の水神宮



④羽村取水口堰下



⑤洪水の羽村堰



⑥羽村取り入れ口

写真集 多摩川は語る

写真集多摩川は語る編集委員会

昭和 60 年 (1985)

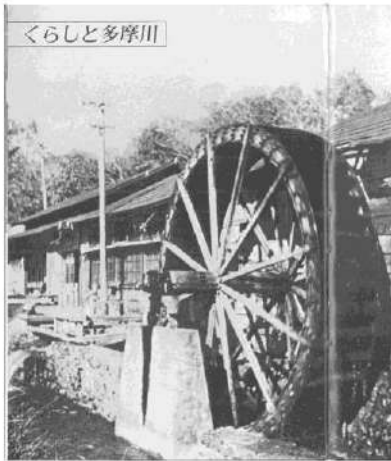
No.17



⑦阿蘇神社の脇を流れる羽用水



⑧羽村のまつり



⑨拝島の水車



⑩拝島の水車



戸へ通んだ産業道の
杉並馬場から分

五日市街道けやき堂本
現在の成蹊大学付近。

⑪



⑫



小平上空より青梅街道西方を望む
明治初期に青梅街道で高まった建物が
見られ、建物がついでに、
町敷、町敷、町敷、町敷、町敷、
町敷の並びがよくわかる。
昭和初期撮影、多摩

①小平上空より青梅街道西方を望む



井の頭公園御殿山
井の頭公園御殿山の石道、井の頭公園、多摩

②井の頭公園御殿山



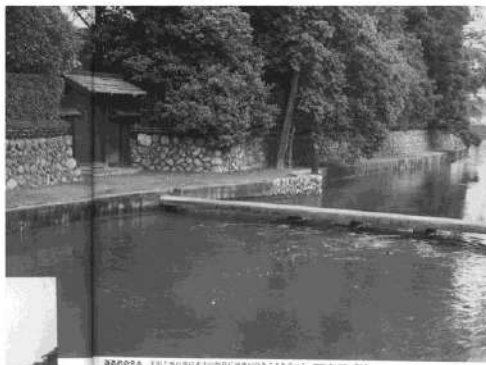
台風の大増水した羽村取水堰
350年前から江戸へ送って東京へ水を
送り続け、東京府移管の政争の要ともなった。
昭和55年(1984)9月 羽村市

③台風の大増水した羽村取水堰



羽村の堰
多摩川の水を取水して、江戸(東京)国ツ谷大木戸まで十一里、350年もの湧水を送りつ
づけた。ここ羽村は江戸と武蔵野台地の水境であった。 明治初期 日野町

④羽村の堰



⑤酒造所の分水



拜島宿
中央に拜島宿の馬車、水車をよけていた。江戸期が最も繁栄した拜島宿の繁栄の地。 昭和初期 日野町

⑥拜島宿



上水を見つめる晩年の太宰

⑦太宰治と玉川上水(玉川上水を見つめる晩年の太宰)

野火止用水(小川付近) 小川橋から分水した野火止用水は、北多摩北部の大池をうるおし、平林寺のある野火止を通り荒川へそそいでいく。松平伊豆守の名をとって伊豆殿堀ともいう。昭和32年(1957) 小川市



⑨野火止用水



小金井の桜(梶野橋) 江戸時代から五洲小舎跡は緑地に囲まれ、明治初期には桜が盛った。高野口集のくさくさの文が遺跡が隠れている。昭和32年

⑧小金井の桜(梶野橋)



⑩五日市街道関野橋



戸へ運んだ産物道の
杉並馬場から分

五日市街道けやき並木
現在の成蹊大学付近。

⑪五日市街道けやき並木



辺の作業 田舎を巡ってアブを扱う。後ろの高は天神山。昭和17年(1942)

⑫水辺の作業(天神山下)

写真集・眼で見る多摩の一世紀

多摩百年史研究会

平成5年(1993)

No.18



⑬深大寺周辺の用水で選択する主婦

淀橋浄水場史

東京都水道局

昭和41年(1966)

No.20



①取水所下流の玉川上水路



②武蔵野の樹間を流れる上水路

玉川上水・分水網の構成と関連遺構に関する調査(その2)

(研究助成・学術研究VOL. 39—NO. 234)

著 者 辻野 五郎丸

発行日 2017年11月

発行者 公益財団法人とうきゅう環境財団

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷1-16-14 (渋谷地下鉄ビル内)

TEL (03) 3400-9142

FAX (03) 3400-9141

<http://www.tokyuenv.or.jp/>